

## 目 次

会長のページ 昼夜を舍かず.....	秦 喜八郎	3
日州医談（最近の互助会について）.....	和田 徹也	4
随筆 骨の折れた話.....	谷口 二郎	5
随筆 高齢医師の生活と意見（1）.....	佐藤 衛	6
エコー・リレー（302回）.....	三倉 剛，田中 宏幸	9
表彰・祝賀.....		10
あなたできますか？（29）.....		12
感染症サーベイランス情報.....		13
グリーンページ 日医総研2015年医療のグランドデザイン(2).....	志多 武彦	15
各都市医師会だより.....		20
各専門分科会だより（産婦人科医会）.....	大淵 達郎	22
各種委員会（地域医療保健委員会，学校検診委員会，母体保護不服審査委員会， 介護保険委員会，健康教育委員会）.....		23
駒込だより（患者の安全に関するセミナー，社会保険診療報酬検討委員会）.....		27
宮崎医科大学だより（外科学第二講座）.....	中村 都英	31
平成12年度宮崎県医師会秋期医学会・健康スポーツ医学セミナー.....		32
産業医活動推進全国会議.....		36
日医FAX ニュースから.....		38
医事紛争情報.....		40
医師国保組合だより（第83回通常組合会議事録）.....		42
薬事情報センターだより（162）（有機JASマーク）.....		47
医師協同組合だより（相談窓口から）.....		48
理事会日誌.....		50
県医の動き.....		55
ニューメンバー.....	沖 浩一郎，旭吉 雅秀，長友 安弘	56
会員消息.....		58
行事予定.....		60
医学会・講演会・日医生涯教育講座認定学会.....		62
ベストセラー，ドクターバンク.....		67
診療メモ（メールを始めるまでのABC 3）.....		71
読者の広場.....		73
あとがき.....		74
カット.....	武藤布美子	

## 医師の誓い

人の生命を尊重し、これを救い、更に健康増進に寄与するは、医師たる職業の責い使命である。

人の生命を至上のものとし、如何なる強圧に遇うとも人道に反した目的のために医学の知識を乱用せず、絶えず医学の研鑽と医術の練成に励み、細心の注意と良心に従って医を行う。

社会の倫理にもとらず、不正の利を追わず、病を追ひ、病を究め、病める人を癒し、同僚和睦び相携えて、医学の名誉と伝統を保持することを誓う。

## 宮崎県医師会

(昭和50年8月26日制定)

〔表紙写真〕

### 晩秋の岡城跡

岡城跡は竹田市の東、断崖絶壁の谷に囲まれた山頂に有り、中川氏13代277年間の居城であった。明治2年版籍奉還により、同4年すべての建物が破棄され、石垣の城壁と礎石と若干の樹木を残すのみとなった。荒廃した城跡を寒風の中散策した。

宮崎県医史懇話会 かわ ち じつ よ 河内實世

(平成4年12月6日撮影)

## 会長のページ

## 昼夜を舍かず

秦 喜 八 郎



女子マラソン高橋尚子選手が金メダルを獲得しました。ヤワラちゃんの8年越しの悲願の達成。宮崎出身の井上康生選手の堂々たる一本勝ちと、シドニー・オリンピック観戦のため

寝不足が続きます。県医の河野雅行常任理事も、日本チームの随行ドクターとして1週間シドニーに行ってきました。

テレビ観戦にうつつを抜かしている間にも時は流れていきます。

9月5日の日医都道府県医師会長会議で、「2015年医療のグランドデザイン」が冊子として配布され解説が行われました。わかりにくい自立投資について質問が出ました。森首相の私的諮問機関である「社会保障構造の在り方について考える有識者会議」でも坪井会長による説明があり(8月30日)、早速日本経済新聞の社説に、日本医師会が初めて議論に値する提言を出したとほめられました(9月5日)。本来、厚生省が80兆円はかかると推測している2015年医療費を、日本医師会が、慢性疾患の定額払いの導入や、手厚い終末期患者の適正化をはかることにより60兆円で済むと具体的な医療費抑制策を提言したと高く評価されています。ホメ殺しとか自らの手を縛るものとの批評もありますが、素直に医師会の意見が世間に認知されたと喜びたいと

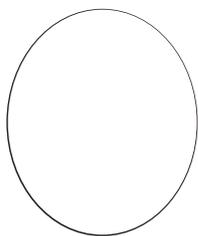
思います。日州医事9月号から3か月に亘って志多副会長が要約します。先生方のご意見をお待ちします。

9月21日には、国会が開会され、森首相はIT革命と教育改革、補正予算を三本柱とする所信表明を行っています。IT受講カードの配布や中高生へのボランティアの義務づけなどのアイディアには賛否両論が出て来ています。勿論、医療保険制度改正関連法案も再提出されます。増大する老人医療費抑制のための高齢者定率1割負担制の導入を柱とする健保法改正案、一般病床と療養病床の区別の導入をはかる第四次医療費改正案など医療保険制度抜本改革への前段階となるものです。規制緩和、自由競争の導入の可能性など先の論議をする前に目の前の課題への十分な論議に加わらなければなりません。

限られた字数ですが、どうしても取り上げておかねばならない二つの問題があります。1点は、召集中の第150回臨時国会で、来年の参議院比例代表選挙に連合与党の主張する「非拘束名簿式」を導入する公職選挙法改正案が可決される雲行きです。国政は党営選挙と割り切ってきた私共の戦術を転換せねばなりません。もう1点は、大詰めにきたシーガイア問題です。債権放棄を求めているとか、松形知事も乗り出して、国内外企業に経営参加を求めるといわれています(9月20日、宮崎日日新聞)。私共も、本県観光に欠かせない施設として健全な運営が出来るように応援・提言したいものです。

(H12.9.25)

## 日州医談



## 最近の互助会について

理事 和田 徹也

互助会はお役に立っているか？

給付を受けた方に尋ねないとわからない事ですが、平成11年度決算書をみますと、給付金総額は4,745万円で、60名の方が受給されています。このうち、途中退会や死亡で給付を受けられた方は、自分で掛けてきた金であるので役に立っていないとも見れます(利息についてはいるが)、残る休業見舞金と弔慰金ですが、後者は額も少なく本人は知らない事で、結局お役に立てたのは休業見舞金1,452万円で、一人あたり平均76万円です。多い方が200万円、少ない方は数万円、すなわちこの差は、休業された日数によるものです。

一方、金融機関から融資を受ける際、互助会から斡旋できるとする規定があります。但し、本会と銀行とは覚書による、互助会融資申込書の証明です。しかし、契約銀行への信用物件におおいになると思われます。前期1年間では、融資証明額は1億4,500万円で12名の方が利用されており、平均1,200万円です。個人の価値観の違いがありますが、少しでもお役にたてればと思えます。

最近の収支はどうであった？

前年同期は1,468万円の赤字でした。平成8年度に給付金を減額する規定変更してからも、年平均1,000万円の赤字が出ています。但し、この変更でそれ以前2年に渡り出ていた赤字の半分以下に削減される効果が出ています。赤字の主な原因は、経済の低迷による利息の低下で、運用が厳しくなった事によります。会員からの掛け金の残高は決算書の会費の部に記載されています。全て確保されています。他方、利息の部の

残高はこの6年、目減りしています。この利息の部の残高で主に、赤字分と給付分を賄うわけです。運用金の利息の見込み(収入)と給付金の予想(支出)を鑑み、この残高が何年持つかが、難しい判断となります。具体的な数値は総会の資料の決算書をご覧ください。この件は、年4回ある互助会監査で常に話題になり、貴重なご意見を頂いています。その後の運営に参考にさせていただいています。

今後、互助会はどうなる？

本互助会も成熟期に入り、制度の運営は経済窮境の事もあり窮屈になっています。少々曖昧になっている互助の精神(相互扶助)を本事業ではっきりさせるかを、論議する時期かかもしれません。年金とは少し発想が違ってきます。本来なら、会員だれでも収入が断たれたら少しでも手助けになればと言う互助の精神です。病気もせず仕事を続けていければ掛け金は返却されなくても良いわけです。他の県医の互助会はそのようです。その分、加入率は少々悪いようです。しかし、制度そのものは順調と聞いています。本会は、全額しかも利息までつけて返却する分、扶助の給付金は少なくなります。現状の経済窮境が続く限り、制度の運営は厳しくなると思われます。事業続行の為には、互助の精神が曖昧な本制度を根本的に変更するか、今までのように、その都度規定を変更して給付を変えていくかになります。前者は給付金を増額し得、安定的ですが、後者は給付金は減額の方であり、場合によっては、解散もありえるかかもしれません。互助の精神は、医師会の基本的発想の一つと思われ、可能な限り存続したいものです。

## 随 筆

## 骨の折れた話

宮崎市 <sup>たに</sup>谷 <sup>くち</sup>口 <sup>じ</sup>二 <sup>ろう</sup>郎

「イタタター」台所で家内の声がする。駆け寄ると左足の小指の部分を手でおさえている。どうしたのかと尋ねると、テレビを見ながら後ろ向きに歩いていたら、ドアのカドに、左足の小指と薬指をはさむようにぶついたらしい。

おさえている手をどけて見てみると、小指が何となく腫れている。しかも少し外側に向けて小指が曲がっている。角度にしたら薬指と30°位外側を向いているのだ。

「痛いのか」と言っただけでちょっと触れたら「イタイ!!」と叫ぶ。よほど痛いらしい。まだ朝7時頃なので、とりあえず冷やして8時過ぎたら、近くの整形で見てもらうことにした。

昼頃病院から帰ってきた。びっこを引きながら歩いているので「どうしたの?」と聞くと、骨折していたという。家内が言うには、レントゲンを撮ったら見事に、小指が真中から折れていて、麻酔をして引っぱり元通りにつけたらしい。その上を固定し、包帯をまいてもらったと言う。

何というマヌケな家内だろうと、笑ってしまった。だってテレビを見ながら後ろを向いて歩き、足をぶつけ骨折するなんて、家内には悪いがまるでマンガみたいな話だったからである。

だが実はそう言う私も足を骨折したことがある。医者になりたての頃、ある歓送迎会があった。二次会は大きなディスコ。当時流行りだったブレイクダンスをしている時だった。酒を飲んでいてせいもあり、最初はちょっと右足を捻挫したのだろうと思い、そのまま踊った。

しばらくしてあまりに痛いので、靴を脱いでみると、足がかなり腫れている。靴をはきなおそうとするが、腫れていて全然入らない。仕方ないので片足は裸足でタクシーに乗った。家に帰り足を見ると、踊っていた時よりも倍も大きくなっている。そこで氷で冷やして、とりあえず様子を見ることにした。

かなり酒に酔っているのに、うなり声が出る位痛い。酔いが冷めた時は、ジンジンしてどうにかしてくれという位の痛みだった。

朝一番に病院に行った。レントゲンを撮るなり「こりゃ折れてるよ」とあっさり言われた。早速ギプス固定と思ってたら、手術しないとちゃんをつくかどうか保証しないとわれ、しぶる私を両手ではがいじめにし、すぐに手術場に連れていかれオペをされた。

手術場に運ばれ裸にされると、背中から麻酔され、ハリガネで固定し、その後ギプス固定された。手術には1時間半もかかった。それから約1か月入院した。

右足を膝の所まですっぱりと石膏の入ったギプスで固定され、その日から不自由な生活が始まった。一番困ったのが排便。足を曲げることが出来ないで、しゃがむことが出来ない。当時はほとんど和式のトイレだったので、アブラ汗をたらしながらトイレを済ませた。

よかったのは、足以外は元気なので、1日中ベランダで上半身裸になって日光浴が出来たことだ。おかげで退院するころには、まるでサーファーみたいに真っ黒に陽焼けし、スタッフのひんしゅくを買ってしまった。

さて知人に家内の骨折の話の大げさにしたら、その日の夜、両手でかかえきれない位のお見舞いの花束が届いた。

足を折り、スリ足で歩いている家内をみて、あわれとは思いつつも、やはり何か「クックク」とその容姿を見る度に笑いがこみあげる。

全治1か月の家内を目の前にして、骨折した足の裏にダスキンでも結わいつければ、床はピカピカになるのにと不謹慎にも思いつつ、大きな花束の前を行ったり来たりしている家内の姿を見て、又思い出した様に「クックク」と笑うのを一生懸命こらえている私である。

## 随 筆

## 高齢医師の生活と意見 (1)

宮崎市 佐 藤 衛

## 「ある老小児科医の生き方と考え方」

今年82歳の老小児科医たる私が、平成9年の年賀状に書いた現況報告には、「仕事は乳幼児健診を2時間ずつ月に2回程度。専ら母親の愚痴の聞き役、慰め役。時々予防接種も引き受けるが、診療の緊張には次第に耐え難くなり、院長不在時の代診も2時間までと協定している。朝は3時に起床し6時まで書斎にあり、読む、考える、時に書く。7時の朝食は専ら甘藷と牛乳で、これに味噌汁・野菜・果物・菓子などがつく。そのあとNHK朝のテレビドラマを見ながら15分間竹を踏む。午後は週に2～3回プールに行き、専ら背泳で7～800米。毎日午睡1～2時間。夕刻入浴のあと、チーズと豆類を友に晩酌、カンビールの中1個。興至ればさらに1個、又は日本酒1合。就寝9時で夜間排尿2回ほど。諸検査値許容範囲内にあり、常用薬なし。」とあるが、それから3年たった今、大方の生活に著変は無くとも、私の老化は釣瓶落しである。

長寿の人が健康の秘訣を問われると、自信ありげに生活習慣・食習慣・行動信条など述べるのをよく見るが、何時からどんな意図のもとにそうしたのかは、はっきりしないのが普通である。人間の生活はすべて計画的に営まれるものではなく、年月を経るうちに何時しかそんな癖がつき、今はそれが一番仕勝手が良い、というだけなのが生活習慣の実情だ。実際己れの努力と自制によって、計画的に長寿を創ることなど出来ない相談で、遺伝と環境と幸運にめぐまれぬ限り、寿命は予測不能である。親友Aは大学

を出たばかりで戦死した。私も4年間従軍したが運よく無傷で復員出来た。Bは私より頑丈だったのに結核で死んだ。私も少年時代、結核で1年あまりブラブラしたが、恵まれた家庭の御陰で再生した。Cは大腸癌で40歳前にあたら死去し、私は死線をさまよう重病から奇跡的に生還した。だから長寿の秘訣とは聞かれ、食生活や運動・日課などを得々と述べるのは、早やそれも一種の老化現象だと私は思う。

老人過多の今の時代に、老人の存在価値は何処にあるのか。数が多いというだけでも価値が下がるのは当然のことで、伝統的部族社会における人生50歳時代の希少・貴重な70歳とは意味が違う。今や老人は地上に満ちあふれ、ために後続社会の負担と目され、一方目まぐるしく変化する社会の動きは老人の理解を越え、情報機器の発達と情報システムのネット化社会は、若者の技術と思考の独壇場となり、老人の出る幕はほとんど無くなったのが、今の社会の現実であろう。だから未来社会における老人の存在価値は、ほとんど無に近いと言われても仕方のない現在、なお私が小児科医であり続けたいと念願し、その一員として働くことに固執するのは何ゆえか。それは過去の歴史に連なる現在を知らずに、現在に連なる未来を予測・構想することは出来ぬと信ずるからである。伝統と歴史を無視した現在の医学・医療は根無し草と言うべく、行くべき道を見失い早晚枯れると信ず

るからである。医学の伝統とは何か、歴史とは何か。まこと小児学の戦前の実情と戦後50年の劇的展開を知らずに、21世紀の小児学を構想することは出来ぬし、しかもそれを体験した者が県内で早や私だけになった今、伝えるべきことあまりに多く、滅多に去るを許されぬと信ずるからである。これが後期高齢者となった私の、一つの生きる理由である。

かく言う間にも老化の進行著しく視力・聴力・筋力・運動神経とみに衰えつつあるが、小児科医としての老いを痛感させられたのは、80歳前から乳児へのツ反応がほとんど出来なくなったことだった。同じころから歩き方が下手になり、手痛く転んで膝を痛め、正座もあぐらも出来なくなった。それからは左右のバランスを取りながら、転ばぬよう用心して歩く老人歩きが身についた。同時に鏡で見る私の顔は全筋肉が緩み老人顔となり、しゃべるとヨダレが出易くなった。声は徒らに高く早く感情的になり、しかも論理を外れ意味不明瞭になりやすくなった。こんな高齢小児科医の前に座った育ちの異なる若い母親が、私の顔を見ながら私の話すことをどう受け取りどう理解し、どの程度まで信用してくれるのか。考えれば考えるほど自信喪失し懐疑的にならざるを得ないのが、今の私の現実である。かように外貌と機能に欠落多い高齢医師となりながら、なお仕事を続けるための基本条件はなにか。それは若い者に負けるものかという肩肘張った競争意識を残らず捨て、衰えた体力知力の現実を素直に認め、その力の欠落を外部からの人的・物的援助と介助で補いつつ、老医の老人力を自分なりに発揮するよう努めることしか無い。それでは老小児科医は、どんな援助・介助とシステムの改善を願っているのか。

少子社会ゆえ小児科医は益々忙しくなる現状

なのに、小児科医希望者は減りつつあり、その手不足を予備後備の高齢小児科医でカバーするとすれば、最適の出番は乳幼児健診であろう。そこでは子育ての知識と経験の積み重ねと、人を見て説く説法の老練さが一番ものを言うからである。そしてその老人力を十全に発揮させるため、どんな特段の配慮が必要か、集団乳幼児健診を例に語ると、老眼には眼鏡・天眼鏡と適当な照明を、難聴には補聴器と検診室の防音を、拙ない歩行には手摺りやバリアフリー構造を。健診室の配置、健診用具の選択、健診票の形式と記載法にも工夫と配慮を。さらに各健診部門の配列と流れの合理化・能率化と、看護婦や保健婦の適切な介助・援助など、注文は多い。かく高齢医師の仕事には機械・器具・設備による十分な補完と、周囲のコメディカルからのより適切入念な介助が必要であることを、関係者に知って欲しいものである。

現在宮崎市の乳幼児集団健診は、小児科その他各科の医師のほか、保健婦・看護婦・栄養士・心理指導士などがそれぞれの専門とする健診を独自に行い、大きな問題のある場合その総合検討と事後処理は、後日の審査検討会でこれを行うことに、小さな問題や疑問には担当者がその場で自己の責任で指導する慣例になっており、概略これで大過ないが、ここに残る最大の問題は各健診者の健診能力又は健診努力の不揃いと、それを補正するシステムの欠如である。

人間個人は個性をもつ独自の存在だから、同じ仕事に従事してもその能力・熱意・適性に個人差があるのは当然であり、その差異を限りなく小さくし集団業務に斉一性を持たせるべく、各分野の専門研修・資格取得が前提となり、業務開始後はその業績に適切な批判・指導・考課があるべきだが、現行健診システムではそのための責任者が明確でなく、従って各自の指導内容はいわば野放しである。だからある人の不合

理な指導を耳にしてもそれは結局うわさにとどまり、いわゆる peer review (相互検討 批判) にまで至ることは先ず無い。だがそれで健診の向上が望めるだろうか。

健診する小児科医の場合、卒後研修段階では医療技術の研修にセイ一杯で、小児保育に関する勉強までは手がかかず、健診は見よう見真似と常識の範囲でいいと思っている医師も多く、一方老練の小児科医の、常識を逸脱した気ままな指導に驚かされることもある。保育指導はこれで済むほどヤワなものだろうか。小児医療が成育医療に拡大・変化しつつある今でも、育児に関する親の知識が階層分裂してますます指導困難になった今でも、こんなナマクラ指導で良いのだろうか。医療責任が厳しく問われる時代に、育児指導の責任は問題とならずに済むのだろうか。

3～4年前の県小児保健学会で特別講演の講師に、「医療過誤の責任が厳しく問われる時代に、育児指導の過誤責任を問われることはないのか」と質問した。講師は「乳児健診でL・C・Cを見落したため、提訴されたが却下された一例しか記憶しない。余程の迷論でもそれを盲信した親に第一の責任があり、指導者が責任を問われることは先ず無い。」と返事された。この回答をもとに育児指導の指導責任を、私なりにまとめると、「育児学は小児医学と異なり 科学又は真理と言えるほどの内容に乏しく、多くは伝統と習慣に属するものである。しかもクライアントの出自・生活の実態についてはほとんど知ることの無いまま、その場一回限りの指導で終わることが多いから、その内容の大部分は指導者の経験と知識の範囲内での一般論に留まる。だからその指導内容を採るかどうかは、専らクライアントの判断と責任の問題で、指導者の責任を問われることは先ず無い。」と言うことだろう。

一方医療の過誤では Evidence Based Medicine が厳しく問われる現在、少子化・核家族化の状態で働く両親が、育児のノーハウの大部分を専ら健診指導に求めるようになれば、健診にも Evidence Based Guidance が要求されるのが当然ではないか。小児科医が小児に関する専門家を自認する限り、診療における同等の緊張と知識をもって指導に当たらねば、育児指導の責任は果たせぬのではないか。そして医療における医師の仕事がどんどん変わりつつあるように、小児科でも育児指導という仕事が、今や医療に匹敵するほどの大きさ重さを持ちつつあるのではないか。かような医療の流れの変化はどの診療科にも、インフォームドコンセントという作業を通じ、それなりに浸透しつつあるのに、どうして現役の医師は対話・説得・指導という、古くて新しい診療のかたちを敬遠しがちなのか。その最大の理由は現行健康保健法に診療給付はあっても、予防給付がほとんどないと同様に、蘊蓄を傾け時間を掛けた対話と指導が報酬面で正当に評価されず、依然として戦前と同じ犠牲と奉仕を医師に強いているからであると思う。仕事に対する正当な報酬が見込めぬ限り、その仕事は伸びぬのが当然で、これからの医療のために医師会の、そして特に小児科医会の、格段の努力を要望する。

最後に再び言う。高齢社会での仕事に年齢制限は無いと言っても、医療は物を作る仕事と違い人を相手とする仕事だから、対面した相手に与える第一印象がものを言う。まして小児科医が初見の若い両親を前にして、気力の失せた老いの露わな顔を見せつくと、大抵の若者とは会話が生まれにくい。だから70歳を超えたら、時に鏡を見て己れの老化の程度を確認し、妄信を自信と取り違え、能力の限界を越えることの無いよう自戒せねばならぬ。

## エコー・リレー

(302回)

(南から北へ北から南へ)

## われ「ER」と女王様を愛する

日向市 和田病院 <sup>み</sup>三 <sup>くら</sup>倉 <sup>たけし</sup>剛

ついにダグとキャロルが別れた。といっても、ワイドショーネタではありません。

NHK -BS2 で月曜日の夜放映されているER - V での話です。

「ER」は米国シカゴのある総合病院救急部を舞台に、レジデントが描く人間模様のドラマです。脚本をハーバード大医学部卒業の作家マイケル・クライトンが担当する米国の人気テレビドラマで、エミー賞を2度受賞しています。シリーズも5回になり、米国では第6シリーズが終わったようです。

日本の医療ドラマと違って医療描写のディテールもしっかりしています。我が家では夫婦、親子そろってみています。病棟婦長キャロル役はジュリアナ・マルグリースですが、我が家の女王様に似ています(眉毛の濃いところ(のみ)が)。息子も同じ意見でした(「テレビの方が美人やけどね」と余計なことを付け加えます)。そこで私はおそろおそろこうきりだしてみました。「ダグ(今売れっ子のジョージ・クルーニー)はお父さんに似とらんね?」(小声で)「髪の毛の短いところが——」。

しかし女王様は即座に却下されました。「ぜんぜん似てない。お父さんは寅さんのタコ社長よ」息子、応援せず。孤立無援。

ああ言うんじゃないかった。後悔先に立たず。山の神の逆襲にあいました。

このようにして我が家ではこの番組を楽しんでおります。

〔次回は、宮崎市の竹永 誠先生にお願いします〕

## 宵に包まれ

宮崎市 神宮医院 <sup>た</sup>田 <sup>なか</sup>中 <sup>ひろ</sup>宏 <sup>ゆき</sup>幸

学生時代から聴いていたジャズヴォーカルレコードを、10年ぶりに奥の倉庫から引っ張り出してみた。古き良き時代のジャケットが目飛び込む。胸がときめく。つい鼻がメロディーを奏でる。一人深夜、雑音を消しターンテーブルに乗せる。甦る別世界。あの頃の歌手は本当に歌が上手かった、と心がささやく。真似して謳うが、すぐため息にかわる。一人で聴く所だ。

トニー・マーティン、ヴィック・ダモン、ドリス・デイ、スティーヴ・ローレンス、パディ・グレコなど、秋葉原、新宿の中古店を駆けめぐりLPを集めたものだ。ロマンティックな調べ、ジャケットも秀逸。同じ歌が別の歌に聞こえる編曲のうまさ、みな個性を競い合った。

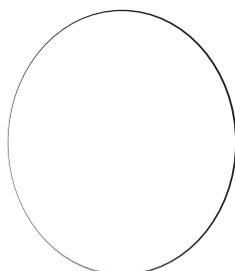
今はインターネットを使い、復活したCDを米国から数日で入手できる時代だ。でも針を乗せる作業も、スリ傷の音さえも懐かしい。20年来聴き惚れているのが、ダモンの「イン・ザ・ブルー・オブ・イヴニング」。今も当時と変わらぬムードにしばし我を忘れる。そして時間だけが静かに流れていく。

〔次回は、佐土原町の山脇清一先生にお願いします〕

表彰・祝賀

公害健康被害補償制度の貢献者として  
国務大臣・環境庁長官表彰

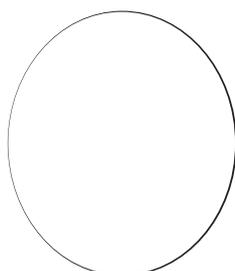
お だ まさ みち  
小 田 眞 道 先生（宮崎）



9月1日(金)県庁において、公害健康被害補償制度の貢献者として国務大臣・環境庁長官表彰をお受けになりました。

救急医療功労者として厚生大臣表彰

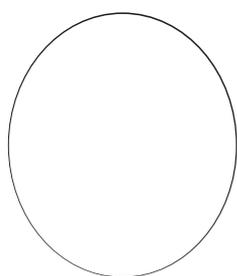
くろ き けん  
黒 木 建 先生（延岡）



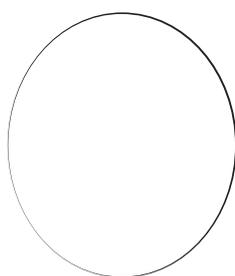
9月8日(金)厚生省において、救急医療功労者として厚生大臣表彰をお受けになりました。

救急医療事業功労者として県知事表彰

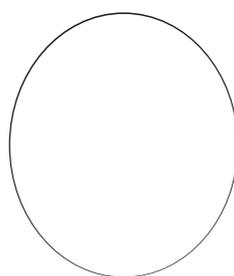
はま 濱	だ 田	よし 義	つく 次	先生（都城）
いち 市	はら 原	まさ 正	あき 彬	先生（延岡）
きく 菊	ち 池	きよ 清	ふみ 文	先生（宮崎）



濱田 先生



市原 先生

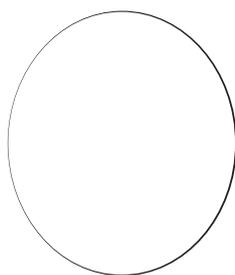


菊池 先生

9月8日(金)県庁において、救急医療事業功労者として県知事表彰をお受けになりました。

がん対策推進の功績により日本対ガン協会賞受賞

く ぼ かん  
久 保 貫 先生（都城）



9月22日(金)滋賀県で開催された、がん征圧全国大会において、日本対ガン協会賞をお受けになりました。

各分野において表彰されました先生方に対しまして、衷心から祝意を表しますと共に、今後ますますのご活躍をご祈念申し上げます。



## あなたできますか？(29)

平成12年 医師国家試験問題より

(解答は 67 ページ)

- WHO 方式癌疼痛治療指針に合っているのはどれか。
  - 昼夜を通じての完全無痛を目標とする。
  - 経口鎮痛薬を基本とする。
  - 鎮痛薬の効力に従って段階的に用いる。
  - 第3段階の代表的薬剤はコデインである。
  - 適応は末期癌患者に限られる。

a (1),(2),(3)    b (1),(2),(5)    c (1),(4),(5)  
d (2),(3),(4)    e (3),(4),(5)
- 泡沫状血性痰がみられるのはどれか。
  - 成人呼吸窮迫症候群 ARDS
  - 肺水腫
  - じん肺
  - 肺門型肺癌
  - 粟粒結核

a (1),(2)    b (1),(5)    c (2),(3)  
d (3),(4)    e (4),(5)
- 正しいのはどれか。
  - REM 睡眠時に夢をみることが多い。
  - 老人の不眠では入眠困難が特徴的である。
  - 躁病では睡眠障害は少ない。
  - 摂食障害では睡眠・覚醒リズム障害が多い。
  - うつ病では熟眠感が失われることが多い。

a (1),(2)    b (1),(5)    c (2),(3)  
d (3),(4)    e (4),(5)
- 聴診法による血圧測定について誤っているのはどれか。
  - 幅の狭いマンシェットを使用すると血圧は低めに測定される。
  - マンシェットは指が1,2本入る程度に巻く。
  - 血圧測定点付近では1脈拍ごとに約2mmHgの速度で水銀柱を下げる。
  - 高齢の高血圧患者では触診法の併用が重要である。
  - Korotkoff音が全く消失する目盛りを拡張期血圧とする。
- 男性患者で尿道カテーテルを長期間留置したときにみられる合併症はどれか。
  - 水腎症
  - 膀胱穿孔
  - 膀胱結石
  - 前立腺炎
  - 尿道皮膚瘻

a (1),(2),(3)    b (1),(2),(5)    c (1),(4),(5)  
d (2),(3),(4)    e (3),(4),(5)
- 経膈分娩時,児に感染しないのはどれか。
  - クラミジア
  - トキソプラズマ
  - ヒト免疫不全ウイルス HIV
  - ヘルペスウイルス
  - サイトメガロウイルス
- 悪性腫瘍の合併を考えるべき疾患はどれか。
  - 貨幣状湿疹
  - Gibert 薔薇色糞糠疹
  - Sweet 病
  - 硬結性紅斑
  - 酒皰様皮膚炎
- 一過性意識消失の原因として予後が最も悪いのはどれか。
  - 起立性低血圧
  - 欠神てんかん
  - 血管迷走神経反射
  - 不整脈
  - 過換気症候群
- 劇症肝炎について正しいのはどれか。
  - 亜急性型は急性型より予後が良い。
  - C型肝炎ウイルスによるものが最も多い。
  - 羽ばたき振戦が出現すれば肝性昏睡 度である。
  - プロトロンビン時間 PT は40%以下となる。
  - 肝移植の適応となり得る。

a (1),(2)    b (1),(5)    c (2),(3)  
d (3),(4)    e (4),(5)
- 36歳の女性。脱力を訴えて来院した。付き添ってきた家人はやせていることを心配しているが、本人は気にしていない。身長161cm,体重38.7kg,血圧98/46mmHg。血清生化学所見:Na 137 mEq/l, K 2.6 mEq/l, Cl 103 mEq/l, HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 23 mEq/l。尿中カリウム排泄量20 mEq/日(基準25~75)。本人から聴取した食事内容から推測した1日のカリウム摂取量は40~60 mEqである。電解質異常の原因として最も考えられるのはどれか。
  - 型尿細管性アシドーシス
  - 型尿細管性アシドーシス
  - 原発性アルドステロン症
  - 利尿薬の乱用
  - 下剤の乱用

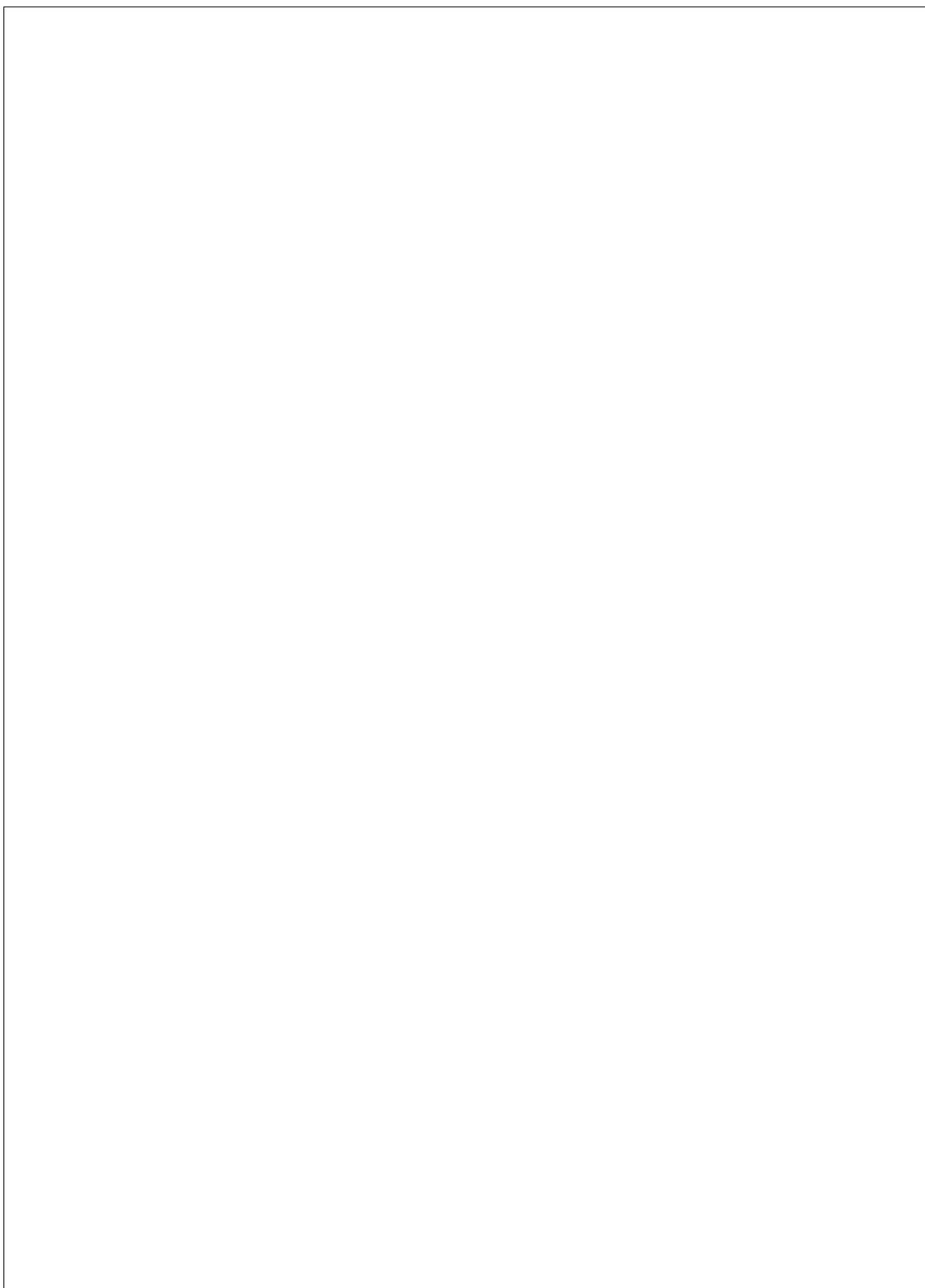
## 感染症サーベイランス情報

調査期間 12年8月14日～12年9月10日

	宮 崎	中 央	都 城	延 岡	日 串	南 門	小 林	西 高	都 鍋	高千穂	日 向	合 計
インフルエンザ												
咽頭結膜熱		3	2	6	8	3	4	1	57	84		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	15	2	4	44	22	9	8	7	4	115		
感染性胃腸炎	155	31	101	71	21	32	37	23	65	536		
水痘	33	3	9	18	26	6	14	2	15	126		
手足口病	65	31	48	105	76	17	46	9	48	445		
伝染性紅斑			3	2	9	1			1	16		
突発性発疹	75	14	24	32	16	7	30	3	20	221		
百日咳				1			2		2	5		
風疹	2			1						3		
ヘルパンギーナ	93	48	24	59	36	4	22	1	97	384		
麻疹	2		2	5	1					10		
流行性耳下腺炎	20	5	35	8	13	1	1	1	10	94		
急性出血性結膜炎	3									3		
流行性角結膜炎	19			9						28		
急性脳炎	1				1					2		
細菌性髄膜炎				1					1	2		
無菌性髄膜炎	3			2	2				2	9		
マイコプラズマ肺炎				3		3				6		
クラミジア肺炎												
成人麻疹												
合 計	486	137	252	367	231	83	164	47	322	2089		

調査期間 12年8月14日～12年9月10日

	8月14日～ 8月20日	8月21日～ 8月27日	8月28日 ～9月3日	9月4日 ～9月10日	合 計
インフルエンザ					
咽頭結膜熱	13	18	22	31	84
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	35	18	30	32	115
感染性胃腸炎	139	145	116	136	536
水痘	34	36	32	24	126
手足口病	112	123	97	113	445
伝染性紅斑	3	2	6	5	16
突発性発疹	53	69	47	52	221
百日咳	3		1	1	5
風疹	2		1		3
ヘルパンギーナ	90	89	114	91	384
麻疹	3	1	5	1	10
流行性耳下腺炎	25	24	23	22	94
急性出血性結膜炎		3			3
流行性角結膜炎	8	3	5	12	28
急性脳炎	1			1	2
細菌性髄膜炎				2	2
無菌性髄膜炎	4	2	1	2	9
マイコプラズマ肺炎	4	1		1	6
クラミジア肺炎					
成人麻疹					
合 計	529	534	500	526	2089



## グリーンページ

日医総研2015年医療の  
グランドデザイン(その2)

副会長 志 多 武 彦

日医総研グランドデザインの第2の柱は「自立投資」概念の導入である。公的保険の枠から一步踏み込んだ画期的なものであるが、今一つ議論を深める必要も指摘されている。

自立投資概念の導入の背景には以下の説明がなされている。我が国は急速な少子高齢化を迎えて国民の将来不安が高まっているが、その原因は経済不況と社会保障及び老後の生活不安である。この社会不安を軽減し、国民が余裕をもって老後の生活設計が出来るようにするのが喫緊の課題であり、そのためには、社会保障制度の整備と充実が有効な政策である。しかしながらそのためには、社会保障の概念を旧来の弱者救済から社会福祉を前面に押し出した積極的な考え方、即ち、社会保障概念の公助、互助の精神を尊重しつつ、更に積極的に自助努力の精神を涵養する事により、国民各自が社会保障を支えていく国民合意形成が必要となる。現実的には、世界的にも評価が高く、安定した日本の医療保険制度を堅持しながら、更に改革を図っていくアイデアとされている(長年培われてきた公助、互助中心の我が国の社会保障制度を抜本的に改革するのは、制度の安定性が阻害される危険性が大きい)。更には社会保障は消費でなく、投資であるという概念を進展する事も必要とされている。

自立投資概念の導入についての日医坪井会長

の発言をまとめてみると

- (1) 国民は自分の老後にどんな準備をするかという意識を持つべきであり、自らが健康的に自立するために投資するという自立投資について国民的合意形成が必要である
- (2) 社会保障を国全体、国民一人ひとりの自覚で支えるという理念がなければ、社会保障費は賄いきれない
- (3) 現在の医療保険は、主に公費と保険料で支えられているが、これからの少子高齢化社会は財源として限界があり、何らかの方策が必要である。公費と保険料だけの時代は過ぎたというものである。

更に補足すると、今後は公的医療保険がカバー出来ない医療が急速に増えてくる。例えば臓器移植や遺伝子治療など、公的保険で賄っていると、すぐに破綻してしまう。また、施設のラグジュアリーの部分やサービス費用も公的保険の対象でない。かかる選択性のある医療は、国民一人ひとりの自らの意志で健康のために投資、蓄財したお金で賄うという「自立投資」の意識で、国民の中に根づかせたいとしている。

更に自立投資の意義づけの一つとして、自立投資を公的社会保障の枠の外におく事で、医療保険の自己負担を軽くする事が出来、医療保険の肩の荷がおりる事を挙げている。

医療経済学的には、自立投資の導入により、

現在より医療保険財源が1.5兆円節減されるとし（日医総研）、自立投資により公的保険の財源が緩やかになれば、公的保険でカバー出来る部分が新たに生まれる。日医としては、詳細に詰めて政府や政権与党に提案していきたいとしている。

なお、名称に関しては、当初「自立負担」としていたが、保険外の自己負担、混合診療と混同され誤解を招くため、「自立投資」と改めたとしている。坪井会長は、医療保険という狭い枠組みの中での話ではなく、日本の社会保障全体の中での考え方と強調している。

繰り返しになるが、日医総研グランドデザインの本論では、自立投資を普遍性のない選択性のある医療を、国民自らが個々の意志で健康的に自立するために投資すべき分野と位置づけ、その財源は公的保険でなく、民間保険や用途を医療に限定した貯蓄を活用する事と提案している。その概念と補足説明は、図表 の如くである。

保険給付医療と自立投資の区分けの考え方は図表 の如くで、区分け軸を、選択性と普遍性、アメニティと医療度の2軸としている。

なお、この概念や区分けは流動的なもので、国民的合意が必要であり、医療全体に占める割合も未知数としている。

一方、自立投資に関しては全面的に賛成、支持できない、或いは危惧する声も聞かれる。

平成12年6月6日、日医都道府県医師会長協議会では、自立投資が国民の理解を得るには、もう少し解りやすい説明が必要とし、

- (1) 全国民が対象となるのか。参加できない人はどうするのか
  - (2) 対象となる選択性のある医療の概念、定義がはっきりしない
  - (3) 原案は民間保険、用途を医療に限定した貯蓄としているが、選択制のある医療に対して民間保険が成立するのか
- 等の疑問が呈されている。

更には、今後の社会保障財源をめぐって、自立投資議論が独り歩き先行している現状に懸念を表明し、社会保障の理念に基づく公的制度としての医療、年金、福祉がなおざりにされる危険性と公的保険の給付範囲縮小に危惧を抱く意見もある。

従来とは方向性が異なる提言とし、経済裕福者で、民間保障を購入出来る者は良いが、弱者は取り残される。公的保障の財源確保策を明確にした上で、自立投資等の財源問題を論じるのが筋で、主客、本末転倒の発想との指摘もある。

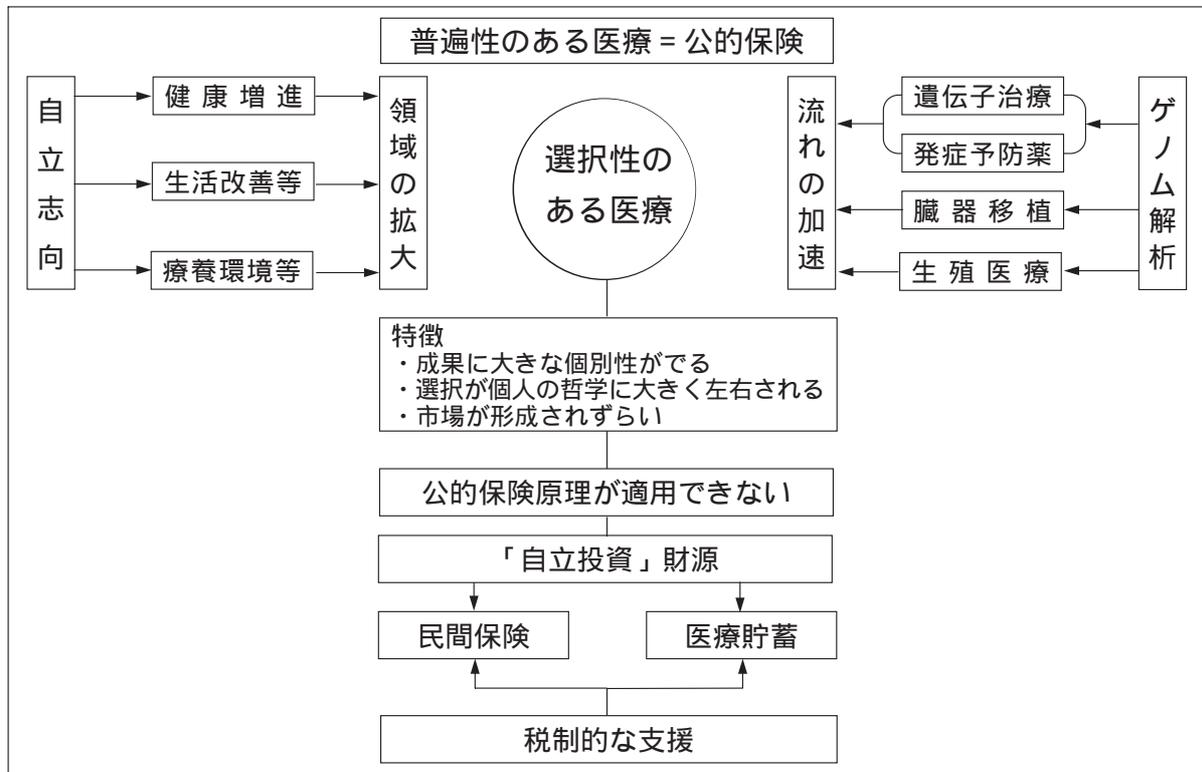
いずれにせよ、「自立投資」については、我々は強い関心を持つと同時に、自分なりの視点、見解が持てる様に努力し、かつ今後の動向に十分注目していかなばならないと考える。

( 参 考 )

	公 的 保 険	自 立 投 資
財 源	賦課方式による保険料と公費	自らの選択による負担
医 療 保 険	普遍性のある医療 (生命に直結し普遍, 平等を基本)	選択性のある医療 (個人の思想や哲学による)
保 健 分 野	予防接種など一定の費用効果が明らか なもの	QOL を改善する程度のもの
介 護 分 野	給付限度以内の部分	給付限度額以上の部分 (上乘せ, 横出し)
年 金	基礎年金	個人年金

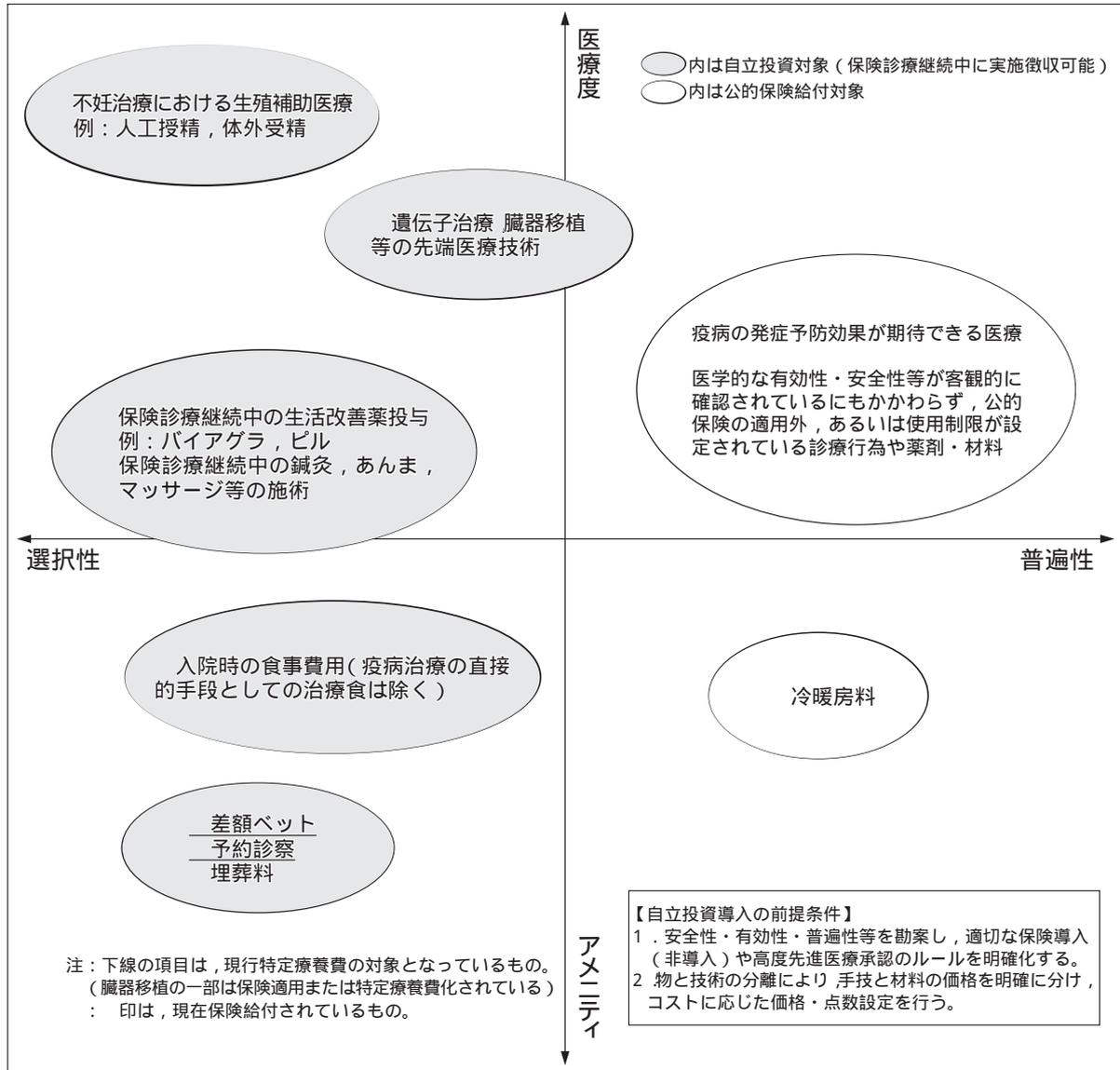
( 図 表 )

自立投資概念の導入について



( 図表 )

保険給付医療と自立投資医療の区分け ( 考え方 )



## ご 案 内

宮崎県医師会員の中には、全国的レベルで活躍されている芸術家も少なくありません。その一方で、立派な作品を制作しながら、発表の場が得られないままの陰の芸術家も、沢山いらっしゃいます。

今回、全国医師国保組合連合会の協議会が宮崎市で開催されるのに合わせて、次の要領で第1回医家芸術展を開催することになりました。

この芸術展が今後大きく発展する為には、医師会員及び御家族の方々の熱いご支援が不可欠であります。

御多忙の事とは存じますが、この主旨を理解していただいて、是非とも御高覧下さいますよう、謹んでご案内申し上げます。

会長 秦 喜 八 郎

### 【第1回宮崎県医師会医家芸術展】

日 時：平成12年10月20日(金)～10月22日(日)

午前10時より午後6時(最終日は午後4時迄)

場 所：県立美術館 県民ギャラリー

部 門：絵画・書・写真

出品者：県医師会員とその家族

#### 絵画部門

吉賀幸夫(宮崎市) 日高敏美(宮崎市) 谷 栄市(宮崎市) 藤木 浩(宮崎市)  
友成清代(宮崎市) 城山治子(清武町) 瀬ノ口敬介(都城市) 吉山政敏(都城市)  
吉山絢子(都城市) 齋藤 宰(えびの市) 長沼弘三郎(延岡市) 長沼恭子(延岡市)  
外山節子(日南市) 橋口哲美(宮崎市)

#### 書 部 門

水田雅久(西都市) 松崎寿子(延岡市) 岡村公子(延岡市) 尾上孝子(宮崎市)  
谷脇かおる(延岡市) 弓削和子(延岡市) 宮崎良江(国富町) 弓削三重子(宮崎市)

#### 写真部門

飯田長雄(都城市) 田崎 力(高千穂町) 松崎武寿(延岡市) 園田文雄(都城市)  
前田俊二(小林市) 吉田 隆(木城町) 楠元正輝(宮崎市) 木谷 靖(延岡市)  
志戸本宗徳(えびの市) 志戸本久美子(えびの市) 押川紘一郎(宮崎市) 竹尾康男(宮崎市)

## 各都市医師会だより

### 児 湯 医 師 会

児湯医師会の近況をご報告します。

\* 昭和52年に建設された当医師会館もひび割れ雨漏りがひどくなり、8月中旬、会館屋上防水シートの張替え工事及び全館外壁塗装を行いました。お蔭様で9月の暴風雨も会館内では快適に過ごせました。締めて400万円也。近く公共下水道工事も始まります。約100万円也。小さな医師会には大きな負担となりますが、仕方ありません。

\* 救急の日にちなんで9月6日、児湯准看学校で、東児湯消防組合より講師をよび、救急セミナーが行われました。救急シュミレーション、応急手当での実施要領など、楽しく学べたようです。その模様はNHKなどのテレビで放映されました。改めて児湯准看の生徒達は美人、美男ばかりであることを認識しました。

\* 来月は当医師会主催での恒例のミニバレーボール大会があります。優勝とダイエット目指して、もうすでに準備を始めております。深刻な話題は後日に後段にて・・・

(永友和之)

◇◇ ◇◇ ◇◇ ◇◇ ◇◇

### 西都市・西児湯医師会

8月31日西都市の石川亭で、三師会（歯科医師会・薬剤師会・医師会）が開催されました。

今年は歯科医師会が幹事の当番でした。当会は、約40年続いております。今年は約50人ほど集まり、行政からは西都市長をはじめ、助役、教育長等もご参加くださり盛大な会となりました。会では、医療・保健問題、介護保険、学校保健等について意見が論じられ、懇親会も大いに盛り上がり有意義な会となりました。

(相沢 潔)

◇ ◇ ◇ ◇

### 南 那 珂 医 師 会

長かった子供たちの夏休みもとうとう終わってしまいました。

幼い頃はただ楽しいだけの思い出しか残っていませんが宿題、旅行、キャンプ、自由研究など、本当に大変なのは親の方だったんだなあ！と、つくづく思い知らされました。(山口幹生)

### 西 諸 医 師 会

介護サービスは高齢者のQOLを左右する重要なものですが、介護保険ではサービス内容は素人である被保険者自身の希望が最優先です。医師による生活習慣病の指導のように、専門家が責任を持ってサービス内容を指導することはできないのでしょうか？ (丹 光明)

◇ ◇ ◇ ◇

### 宮 崎 医 科 大 学 医 師 会

当医師会員の池ノ上教授から、平成11年度宮崎県周産期死亡（出産千対）が、鳥取と共に全国で最低の一位タイになったという嬉しい知らせ。医大の周産母子センターの功績も与っているのでは、と自画自賛しています。(住吉昭信)

◇ ◇ ◇ ◇

### 宮 崎 市 郡 医 師 会

10月22日(日)宮崎市総合福祉保健センターとその周辺地域において、「みやざき健康ふくしまつり」が開催されます。宮崎市の主催で、宮崎市郡医師会も協力している毎年恒例の行事です。「医師による健康相談コーナー」を訪れる人も年々増加し、昨年までは医師2名が担当していましたが、本年度は6名に増員し、対応することになりました。多くの市民の方々が参加されることを期待しております。(中村洋之)



### 都 城 市 北 諸 県 郡 医 師 会

当医師会では、毎年9月9日の救急の日にちなんで「一日救急医療センター所長」行事を開催しております。本年は、9月9日が土曜日であった関係上、前日の9月8日(金)に岩橋辰也都城市長を一日所長、都城観光協会のウェルネス都城スポーツマンの女性お二人を副所長に迎えて救急医療センターの視察と現状報告会を行いました。

また、消防署、警察署、北諸五町、曾於郡四町の行政関係者も一同に会し救急医療の重要性を再確認いたしました。(石井芳満)

### 延 岡 市 医 師 会

平成12年9月10日(日)延岡市野口記念館にて第12回宮崎県糖尿病教育セミナーが376名の参加者と50名のスタッフで開催されました。糖尿病の食事療法を中心とし、宮医大3内科松倉教授と鹿児島県栄養士会会長立川俱子先生に特別講演をお願いし、4人の栄養士から発表があり、質問も時間が足りないほどでした。

(野田 寛)



### 日 向 市 東 臼 杵 郡 医 師 会

救急医療週間の9月6日(水)に日向市消防本部の行事に合わせ、4病院の看護婦が一日救急隊長に委嘱された。はじめに、消防署で隊長として、救急業務等の実務体験をし理解を深めた。その後、大型店の駐車場の「消防・救急フェア」会場で、特設のテント内において、血圧測定・健康相談など、来場者へサービスを提供し、市民の皆様にご喜ばれた。その他、啓発のパンフレットの配布、消防署のイベントにも協力し、フェアに花を添えた。(三股俊夫)



## お 知 ら せ

### 秋の一日 歩いてみませんか

今年も医師国保組合の保健事業の一環として、第6回歩こう会を下記の日程で実施する予定にいたしております。今回は、行程の中に「ホテル北郷フェニックス」を入れ、心地よく歩いていただいた後には、露天風呂でゆったりと汗を流していただく計画にいたしております。



なお、詳細につきましては、後日各組合員の皆様へ直接ご案内いたします。

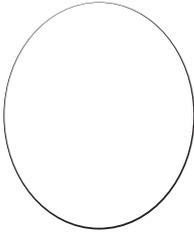
日 時 平成12年11月26日(日)

場 所 日南・飫肥方面

多数のご参加をお待ちいたしております。

宮崎県医師国保組合

## 専 門 分 科 医 会 だ よ り ( 産 婦 人 科 医 会 )



おおひち たつろう  
大淵 達郎 会長

昭和23年7月に優生保護法が公布され、9月10日付で施行されております。優生保護法の指定医は県医師会長が指定するという法律になっており、指定医即産婦人科医ということで、その集まりは「母性保護医協会」と名付けられました。「宮崎県母性保護医協会」が発足したのは昭和23年10月24日で、このあたりの経緯は昭和23年の日州医事25・26号に掲載されています。46名の指定医で発足しています。一昨年の平成10年は創立50周年にあたるので記念式典を盛大に執り行い、昨年創立50周年記念誌を刊行致しました。

平成8年に優生保護法は母体保護法と改正され、当会の名称も「宮崎県母性保護産婦人科医会」となりました。又、全国各県に発足した母性保護医協会（県によっては県産婦人科医会ともいう）は統合され日本母性保護医協会（略称日母/ニチボ）となって昭和24年に発足し、現在は日本母性保護産婦人科医会となりました。

従って、わが会の会則第1条は「本会は、宮崎県母性保護産婦人科医会と称し、社団法人日本母性保護産婦人科医会宮崎県支部及び宮崎県医学会産婦人科医会とする」となっています。一寸前までは「母協(ボキョウ)」又は「県母協」と言っておりました。

現在、全員数は150名余、その中A会員が80名余です。ちなみに日母としては約1万3000名、九州ブロックで約1500名です。日母支部としての活動と県産婦人科医会としての活動は渾然一体となっており、全員研修、社保、従業員研修、

がん対策、おぎゃー献金、広報、医事紛争等夫々担当理事が定められ、担当者同士の全国会議や九州ブロック内での会議も定期的で開催されています。

日母の現会長は坂元正一東大名誉教授で皇室の主治医としても有名な方ではありますが、本年4月から国際母性新生児保健連合(IAMANEH)の会長を3年間務められます。ちなみに坂元会長の御先祖は都城島津藩の御家中の由で宮崎に来られると里帰りされた気分になれるのか、すっかりお寛ぎになります。庄内にお墓があるともお聞きしました。

日母と日本産科婦人科学会とは車の両輪とも言われておりますが、宮崎県母性保護産婦人科医会と日本産科婦人科学会宮崎地方部会とは、車の両輪以上殆ど一心同体に近い関係で、年2回春秋の総会も夏と冬の学会・研修会も共同開催になっております。医大が出来る迄はこの二つの会は一人の会長で運営されていましたが、現在は学会長は宮崎医大の池ノ上教授です。医会の方は初代谷口善実先生、二代目伊地知休三先生、以後、郡 嗣彦、細川義一郎、日高英幸、安藤正俊、小川次男の諸先生と続いて現在8代目を不肖大淵達郎が務めさせて戴いております。

今年8月の厚生省発表で、宮崎県の周産期児死亡率(簡単に云えば、分娩周辺期における児の死亡率のことで、勿論数字が少ない方が良い)であり、現在日本は世界第1位の好成績である)が全国都道府県の中第2位になりました。これは宮崎医大周産母子センターをはじめ県内各医療機関その他関係するすべての方々の努力の賜物であり御同慶の至りであります。長くなのでこれで終わりにします。(大淵 達郎)

## 各種委員会

## 第1回地域医療保健委員会

と き 平成12年8月21日(木)

ところ 県医師会館

夏田常任理事の司会により、秦会長挨拶の後、委員長に神戸十四郎先生(宮崎)、副委員長に水元淳一先生(都城)、皆内康広先生(宮崎)を委嘱した。会長から委員長に対して、諮問事項として、

1. 県下の在宅医療を推進するための有効な手段について
2. 地域リハビリテーション推進事業の立ち上げについて
3. 地域医療連携推進の具体策について

の3項目について諮問が行われた。

その後、神戸委員長の司会進行により、報告・協議が行われた。

## 報告

1. 県内市町村における各種がん検診等の事業実施状況について

夏田常任理事から、配付資料により、平成12年7月に標記のアンケート調査を実施し、その結果について市町村の平成11年度～平成14年度の実施状況・予定についての説明が行われ、各都市医師会においても、市町村へご高配分をお願いされた。

2. 6/28(水)(日医)都道府県医師会地域医療・公衆衛生担当理事連絡協議会について

夏田常任理事から、配布資料により、既に日州医事8月号に掲載し報告しておりますが、

- 1) 地域医療連携推進事業について
- 2) 在宅医療の推進のための実地研修事業について
- 3) 個別健康教育についておよび研修内容等について

の報告が行われた。

## 協議

諮問の具体的事項の検討について

在宅医療推進のための実地研修事業の検討については、国の新規事業として、平成12年度から都道府県から都道府県医師会の協力を得て実施するものである。従来の地域医療推進医師研修事業の組み替えた事業であり、地域医療支援病院等において実施するものである。今後、関係都市医師会と相談して、医師会病院へお願いして、ご協力頂き実施に向けて検討することになった。

終末期医療(ホスピス、在宅ターミナルケアなど)への更なる取り組みについては、平成11年度からの県委託事業であるホスピスマインド育成・普及事業の末期医療対策研修会を、本年度も年度内に講師の日程調整を行い、2回開催することになった。

地域リハビリテーション推進事業の立ち上げについては、厚生省から各都道府県へ、この事業の実施について通達が行われており、宮崎県リハビリテーション協議会が、平成13年度設置され、種々の問題について検討が行われる予定である。

出席者 - 神戸(宮崎)委員長、水元(都城)・皆内(宮崎)副委員長、瀬ノ口(都城)・白石(日向)・黒木(児湯)・上山(西都)・外山(南那珂)・上田(西諸)・後藤(西臼杵)・市原(宮崎)・山村(宮崎)・濱田(宮崎)・早稻田(宮崎)  
委員

県医 - 秦会長、志多副会長、夏田・河野常任理事、浜田理事

## 宮崎県医師会学校検診委員会

と き：平成12年 8月25日(金)

ところ：県医師会館

会長挨拶の後、委員長に佐藤雄一先生、副委員長に留守健一先生を選出し、佐藤委員長の司会により会が進行された。

まず、熊本県で開催された第44回九州ブロック学校保健学校医大会関連行事について外山常任理事より報告があった。

協議に先立ち、大坪副会長より、心臓・腎臓検診委員会を学校検診委員会として纏めた経緯について説明があり、引き続き協議に入った。

## 協 議

## 1．心臓検診について

心臓検診委託契約書について、損害賠償責任の項で問題点が指摘され、今後、宮崎県と執行部の間で検討することになった。

また、従来より学校心臓検診に用いてきた宮崎県医師会心臓病調査票の中で、家族歴の項について新しい提案があった。

各郡市医師会でさらに検討し、必要があれば今後調査票を改訂することになった。

## 2．小児生活習慣病について

宮崎県からの委託事業を今後も引き続き継続することになった。

## 3．腎臓検診について

腎臓検診については、かねてより延岡市医師会より要望のあった、県立学校腎臓検診委託契約締結について協議がなされた。

まず、大坪副会長より、延岡市医師会からの要望 九州各県の状況について説明があり、続いて宮崎県健康づくり協会予防医学事業部より、県立学校生徒の検尿の状況について説明があった。

現在、県医師会では、県立学校生徒については 検尿について実態を把握していないが、今後は、宮崎県との間に腎臓検診委託契約を締結し、データを医師会で管理していくことで委員会として一致した。委託契約締結につ

いては、執行部で対応することとなった。

学校検診委員会の今後の運営については、さらに専門的な討議が必要なときは、専門家の入った小委員会をもち処理することで一致した。

出席者 - 佐藤雄一委員長、留守健一副委員長、

児玉實志・野村朝清・今給藜 承・

高嶋 章・山口幹生・宮崎裕三委員

県 医 - 秦 会長、大坪副会長

外山常任理事、浜田理事

担当事務 - 鳥井元課長、伊東課長補佐

## 母体保護法不服審査委員会

と き：平成12年 8月30日(水)

ところ：県医師会館

西村常任理事の司会により、秦会長から「現在、県医師会には27委員会があり、その中の5委員会において医師以外の外部委員に参加していただいている。世の中の急速な変化に対応していく為には、外部の方の意見を取り入れながら国民の理解を得、世間に開かれた医師会になることが必要なので、ご協力の程よろしくお願ひしたい」との挨拶の後、委員長・副委員長・委員の委嘱が行われ、小川次男委員長から「今までの歴史を考えると不服診査委員会を開催することは少ないと考えるが、委員の方のご協力をよろしくお願ひしたい」と挨拶があり各委員の自己紹介の後、報告に入った。

報告では、西村担当常任理事より、母体保護法の歴史と現状、平成12年 4月 1日からモデルの改定に伴い、大幅に変更された宮崎県医師会母体保護法に関する規程等の説明が行われ、現在の問題点等各委員から活発な質問があった。

出席者 - 小川次男委員長、市来齊副委員長、

坂田禮三・後藤久美子・田代知子各委員

県 医 - 秦 会長、西村常任理事、

担当事務 - 竹崎係長

## 第 1 回 介 護 保 険 委 員 会

と き 平成12年 8月31日(木)

と ころ 県医師会館

河野常任理事の司会により、秦会長挨拶の後、委員長に木田修先生、副委員長に野崎藤子先生を委嘱して、会長から委員長に対して、諮問事項として、1.介護保険制度施行上の問題点と県医師会の取るべき対策、2.介護保険の将来像及び予測される状況とその対策の2項目について諮問が行われた。

その後、木田委員長の司会進行により、会が進められた。

## 報 告

「宮崎県介護支援専門員連絡協議会」(仮称)設立準備状況について

河野常任理事から、配付資料により、県介護・国民健康保険課のお世話により、第1回が5月26日(金)、自治会館において、県医師会、県看護協会、県社会福祉協議会、県老人福祉施設協議会、県老人保健施設協会の参加により開催された。その後、第2回、第3回が開催され、最後の設立準備会として、第4回が8月22日(火)、老人保健施設ひむか苑会議室において開催され、規約の件、役員の件、会費及び平成12年度事業計画並びに予算の件が検討された。更に、今後の会の継続的な運営のため、各団体の事務局担当順について協議され、平成12年度は県老人保健施設協会、平成13年度は県老人福祉施設協議会、平成14年度は県社会福祉協会、平成15年度が県医師会、平成16年度が県看護協会が担当することになった。次回は第1回理事会が9月12日(火)開催予定である旨の説明が行われた。

8/10(木)(県医)宮崎県医師会介護支援専門員(ケアマネジャー)連絡協議会(仮称)設立準備委員会について

河野常任理事から、配付資料により、会則(案)、役員、会費について検討を行った。9月27日(水)に設立総会・記念講演会を開催する予定である旨の説明が行われた。

介護支援専門員(ケアマネジャー)実務研修受講試験対策研修会開催について

河野常任理事から、配付資料により、本年度の試験は11月12日(日)実施予定であり、試験対策研修会として、10月1日(日)13:00から、県医師会館において開催する旨の説明が行われた。

## 協 議

諮問事項の検討について

問題点を挙げて、今後検討していくことになった。問題点として、介護度によって自己負担が随分変わる。サービスに影響を及ぼしているのでランクの問題。介護保険制度上の責任の所在、ケアマネジャーの義務と責任の問題。ケアプランの公平なチェック機関の問題。主治医意見書の活用方法。在宅サービス担当者会議のあり方等々の意見書が出され、今後検討して行くことになった。

## その他

主治医研修実施に伴う開催日程予定について

河野常任理事から、配付資料により、県の委託を受けて実施する予定であり、その講師及び日程について検討が行われた。

出席者 - 木田委員長(宮崎)、野崎副委員長(宮崎)、坂元(都城)・山本(延岡)・渡辺(日向)・小村(児湯)・上山(西都)・山元(南那珂)・丹(西諸)・岡田(宮崎)・松本(宮崎)・外山(南那珂)・瀬ノ口(都城)・早稻田(宮崎)委員  
県 医 - 秦会長、志多副会長、河野・夏田常任理事、和田理事

## 健 康 教 育 委 員 会

と き 平成12年 9月 7日(木)

と ころ 県医師会館

秦会長の挨拶の後、委員紹介が行われ、委員長に木下恒雄先生、副委員長に志々目栄一先生、吉田建世先生が委嘱され、会長より木下委員長に諮問が行われた。

## 報 告

- 1) 平成11年度県医師会県民健康セミナー、県民健康地区セミナーについて

県民健康セミナーを宮崎で、県民健康地区セミナーを西都地区と南那珂地区で行った。

- 2) 日医公衆衛生委員会報告

瀬ノ口担当理事より資料に添って報告があった。

- 3) 都道府県地域医療、公衆衛生担当理事連絡協議会 (H12.6.28)

瀬ノ口担当理事より集団健康教育に加え、本年度より予算化(国、県、市町村がそれぞれ3分の1)された個別健康教育について説明があった。

種類は、高血圧・高脂血症・糖尿病・喫煙者に分けられ、期間は6か月間を原則とし1人約30分、4回程度実施する。場所は市町村保健センター・医療機関・健康増進センター等において実施する。

各市町村が主体となり5年間で全ての市町村が導入予定である。現在、予算化されたばかり

で、具体的計画はたっていない。これから各市町村が具体的計画を検討していくが、日医としては、医師会主導で行いたいとの考えである。

各都市医師会と各市町村とで実施方法など協議する。

県医師会として、具体的案を出していただけないかとの意見もあった。

## 協 議

- 1) 平成12年度県医師会県民健康セミナー講演講師及び県民健康地区セミナーについて

県民健康セミナー講演講師については、漢方に関する話題を1題、木下委員長に一任する。また、地区セミナー開催地については、アンケートを取り決定する。

- 2) 諮問事項について

次の諮問事項に対し、活発な討論が行われ今後も検討していく。

県民に対する健康教育の在り方について  
(かかりつけ医と医師会の役割)

小冊子「患者と医師のコミュニケーション」の改訂について

出席者 - 木下委員長 志々目副委員長 上田(章)・尾崎・喜多・黒木・外山・上田(集)・中山・下村・青木・井上各委員

県 医 - 秦会長、瀬ノ口担当理事、河野副担当理事

担当事務 - 落合課長、今井主事

駒込だより

## 第2回 患者の安全に関するセミナー

と き 平成12年9月2日(土)

と ころ 日本医師会館

常任理事 西 村 篤 乃

坪井会長挨拶

このセミナーの第1回を、アメリカ医師会元会長ナンシー・ディッキーにより、7月16日開催した。今回全米患者安全基金、ジョアンヌ・ターンブル理事長に具体的事項を講演して頂く。米国も5年前日本と同じ状態だった。いい手本があるので、患者が安心してまかされる医療の構築を作って欲しい。

〔基調講演〕システムズ・アプローチ

医療におけるエラーの減少をめざして

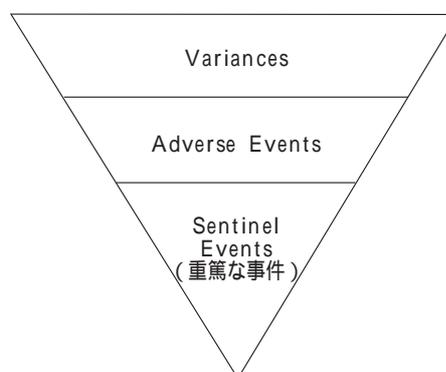
ジョアンヌ・ターンブル Ph.D.

1996年ヒューストンの研修病院で起ったジゴキシン過剰投与で小児の死亡事故を契機として、医療事故減少プログラムに取り組んだ。

同病院で Events を分類 (重篤なものから軽微なもの)

Root Cause Analysis(RCA)という手法により根本原因を明らかにする作業をした。

その結果いくつかの要因に分類される。全体の28%と比率の高かったのは、ヒューマンエラーで人的コミュニケーションの不足であった。具体的には、医師と看護婦、薬剤師間のコミュニケーション、外来と入院のチーム間等。



医療安全対策委員との話し合いで、インシデントレポートを普及させる前提条件として Peer Review Protection Law の整備が議論され、ターンブル先生は、アメリカではこの法律が根付いているとしたが、日本では、最近の警察の関与が、医療事故改善防止対策に妨げとなる危険性を、児玉弁護士が発言した。

その他 Repeater の問題が話題になり、人だけでなく、機械にもあること。事故のリピーターの教育等討論された。

## 第2回日医社会保険診療報酬検討委員会

と き 平成12年9月6日(水)

ところ 日本医師会館

常任理事 稲 倉 正 孝

日本医師会の「診療報酬体系改革(医科)に関する中間提言」および次期診療報酬改訂に対する意見および要望事項について、85ページに及ぶレポートが提出された。

今回と次回の2回に分けて各委員からの説明が行われる予定で、今回は約半数の委員からレポートの説明があり、その後フリーディスカッションが行われた。平成13年5月1日を目標にとりまとめられる予定です。

今回、小生の提出した要望事項等を列記し、会員の先生方のご意見を賜りたいと思います。なお、すべての専門分科医会宛に、次期診療報酬改定に対する要望およびご意見のとりまとめをお願いしてありますのでご協力よろしくお願い申し上げます。

個人的なご意見でも結構ですので、県医師会までお送りください。

国家財政が厳しく、医療費の抑制策がとられており、先生方のご要望の実現は困難かもしれませんが、精一杯努力したいと思っています。

### ・宮崎県小児科医会からの要望

少子化の影響で全国的に小児科医局への入局が減り、小児救急医療(特に夜間)を継続・維持していくのが困難になっている。十分な数の小児科専門医を養成するためにも、危機的状況にある病院小児科の経営を改善するためにも、大幅な診療報酬改定が必要である。日本の次世代を担う小児が健康で健全に育つために十分な投資が必要と思われる。

#### A. 総論

##### a. 小児給付率の引き上げ

小児への保険給付率を現行の7割給付から

9割給付に引き上げて欲しい。現在各地方自治体においてバラバラに実施されている乳幼児医療費助成制度に見られる不公平感(対象年齢、一部負担金、償還制と現物給付など)の解消に寄与し、地方自治体の財政と事務負担の軽減になる。

ただこの要望はかなり以前から、日本小児科医会がアピールし続けてきたにもかかわらず、実現していない。しかしこの要望は訴え続けるべきと思う。

当面は乳幼児医療費助成の全国均一化、対象年齢の引き上げ、現物給付の改善に力を注ぐのが現実的な対応と思われる。

##### b. 予防給付の拡大

健康相談、乳幼児健診などを保険適応にすることにより、疾病の早期発見や適切な生活指導による有病期間の短縮など、医療行為に対して、対費用効果の観点からもメリットがあるのではないかと。

現在、ワクチンの有効性が認められているおたふくかぜ、水痘、インフルエンザ等任意接種となっているワクチンも公費負担にしてもらいたい。

#### B. 病院小児科の立場から

##### a. 小児入院医療管理料の引き上げ

先般、小児入院医療の充実を目的に「小児入院医療管理料」2100点/日が新設されたが、病院小児科には、この包括払いは何ら得るところがない。3500点/日へのアップが必要である。

##### b. 小児待機ベッドへの加算

小児救急のために常にベッドを確保しておく必要がある。空床は、病院小児科の経営に

大きな影響を与えるので待機ベッドへの加算が必要である。

c．小児24時間救急医療の充実のために下記の2点を要求する。

(1) 外来における初診料，再診料への加算のアップと救急医療管理加算の適応緩和とアップ。

(2) 小児科医不足と仕事のハードさのために，各地で小児救急医療は窮地に陥っている。二次または三次小児救急医療の小児科医の定員増をおこなう必要がある。

b．新生児未熟児医療の充実

新生児担当医師は，多くは小児科と兼務であり，医師の仕事内容は限界に近づいているので，新生児未熟児医療の担当医師の増員が必要である。

また，中核となる施設の病床を増やす必要がある。

e．小児科外来療養指導料の適応拡大と加算料のアップ

C．診療所小児科の立場から

a．小児科外来診療料

小児科外来診療料の値上げか下記点数の算定を認めて欲しい。

(1) 赤字になるような高額な検査(例えばIgE RAST，ウイルス抗体など)及び点滴は出来高払いにする。

(2) 同日再診料の新設。

(3) 診療情報提供料，慢性疾患指導料の算定を認めること。

b．予防接種指導管理料の新設

c．小児救急医療加算の増額

### ．宮崎県有床診療所協議会からの要望

福岡県有床診療所協議会長の犬尾博治先生及び長崎県諫早市医師会長で全国有床診療所連絡協議会常任理事の犬尾博治先生のご指導を受けて，下記のような要望を提出しました。

A．有床診療所入院基本料について

a．有床診療所一般病床入院料は，極めて低く有床診療所の経営を窮地に陥れている。急性期を含む一般患者に対する入院料を少なくとも，診療所療養病床を下回らぬ額に引き上げるよう要望する。

b．有床診療所療養病床の入院料は，同一の施設基準でありながら，病院に比べて低く設定されている。療養病床入院料の病診間格差の縮小を要望する。

c．有床診療所は介護者を配置しても点数の加算がない。有床診療所の一般病床においても，病院に於けると同様に看護補助者の評価を行うよう要望する。

d．診療所療養型病床群の病床配置面積や廊下幅，食堂など付帯設備の指定条件は，病院の療養型病床群と大略同じであり，入院8日目を以降の急落する逡減制の廃止を要望する。

B．介護保険適用施設サービス入所者に対する医療に係る診療料について

介護老人福祉施設・介護老人保健施設・介護療養型医療施設に入所している患者が，医療機関を受診した場合，診療報酬を受診した医療機関から請求できるように改めることを要望する。また，他の医療機関を退院した患者さんは一定期間外総診の適用がない。外来患者について，他医療施設・介護施設等の入院・入院歴，受診歴によって医療機関の診療報酬が左右されるのは不合理である。

### ．技術料評価の要望

医師の技術料評価の1つとしての指導料・処方料等について，会員の意見を参考にして，次のような要望を提出しました。

A．特定疾患療養指導料について

生活習慣病等の厚生大臣が別に定める疾患を主病とする患者について，プライマリ・ケアを担うかかりつけ医の機能を評価したものである。本指導料を算定するには，指導内容の要点を診

療録に記載するとなっている（医科点数表の解釈P101）。高血圧等の慢性疾患で、2週間ごとに本指導料を算定するたびに2～3行の同じような指導内容を記入することを要求されるのは、日常診療においては煩雑であり、臨床的には余り意味がないと思われる。患者さんの病状が変化し、治療方針を変更した場合等に指導内容を記載するようにするのが合理的である。医師は慢性疾患の患者さんを診察、指導すると共に全身状態の管理を行っている。

行政による指導、監査に際しては、この指導内容の記載不備を指摘されて、不当請求として多額の自主返還金を求められることがある。従って本指導料の名称を「特定疾患管理指導料」又は「特定疾患指導管理料」と改めて、治療方針に変更があった場合に指導内容を記載するようにして欲しい。

#### B．難病外来指導管理料について

特定疾患より、計画的に注意深い医学管理を

要する難病に対する指導管理料が月1回しか算定できないのは不合理である。月2回算定できるようにして欲しい。

#### C．処方せんの評価について

処方せん等の点数配分は、診療報酬への包括制の導入に伴って、院内処方医療機関が殊更に冷遇されている。地方では、保険薬局が一軒もない地区からの受診者もあり、やむを得ず院内処方している医療機関も少なくない。そういう点にも配慮して、納得できる点数配分を要望する。

#### D．エックス線診断料について

一般開業医レベルでのエックス線診断に関する診療報酬が低過ぎるまま放置されている。改善を望む。

#### E．寝たきり老人在宅診療料と寝たきり老人処置指導管理料の併算定ができるようにして欲しい。

# 愛知医科大学

学長 加藤 延 夫

## 平成13年度学生募集要項

募集人員	医学部医学科 100名 〔推薦入学（推薦依頼校制）約25名及び編入学若干名を含む。〕
出願期間	12月1日(金)～1月13日(土)【必着】
試験期日	第1次試験 1月23日(火) 第2次試験 2月1日(木)・2日(金) (出願時にいずれか1日を選択)
合格者発表	第1次試験 1月29日(月) 第2次試験 2月7日(水)
第1次試験	●数 学 『数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学A(数と式・数列)』 数学B, (ベクトル・複素数と複素数平面)』 ●理 科 『物理Ⅰ, 物理Ⅱ』 } 3科目のうち 『化学Ⅰ, 化学Ⅱ』 } 2科目を選択 『生物Ⅰ, 生物Ⅱ』 } ●外国語 『英語Ⅰ, 英語Ⅱ, リーディング, ライティング』
第2次試験	小論文・面接・健康診断

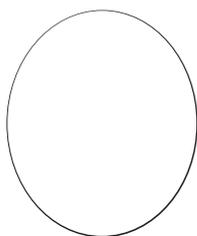
看護学部 平成12年4月 新設

### 学生募集要項請求先

- 医学部.....1,500円(送料共)の現金又は郵便小為替を同封のうえ、医学部学生課入試係
  - 看護学部...看護学部教学課入試係(要項代・送料 無料)
- 〒480-1195 愛知県愛知郡長久手町大字岩作字雁又21 TEL (052) 264-4811(代)

## 宮崎医科大学だより

### 外 科 学 第 2 講 座



おにつか としお  
鬼塚 敏男 教授

宮崎医科大学外科学第2講座は昭和51年5月に開講し、初代富田正雄教授、第2代古賀保範教授、そして平成9年2月鬼塚敏男教授に引き継がれ、現在に至っている。この間一貫して胸部・心臓外科を中心として、

消化器・内分泌外科、一般外科も併せ外科全般の臨床研究を行ってきた。以下、現況を紹介する。

【医局】過去3年間の動きでは、毎年7月に関連病院と大学病院から演題を持ち寄り、第2外科懇話会として研究会を開催するようになったことがあげられる。今年が第3回であり、毎年活気を帯びた討論となり、医局員の交流の場として重要な位置を占めるようになった。また、平成10年12月には懸案であった古賀教授追悼集を発刊した。入局者は3Kを嫌う近年の傾向か、減少していたが、平成12年は3名の入局があり、ようやく学生にも第2外科の存在意義が理解されたものと期待している。平成11年9月現在、医局員は72名（教授、助教授、講師各1名、助手7名、医員10名、研修医3名、大学院生3名、海外留学1名、学外出向46名）、教室の協賛会としての清友会に98名の会員となっている。

【診療】大学における診療は担当医師の交代はあるものの大まかには変化ない。病棟は従来通り臓器別グループをとっており 呼吸器・縦隔・乳腺・食道外科（1組）を松崎助教授・枝川・

清水、心臓血管外科（2組）を中村講師・矢野・長浜が、腹部消化器・内分泌外科（3組）を関屋・宮崎が担当している。新患外来は月曜日を松崎助教授、水曜日を鬼塚教授が担当し、金曜日は中村が、再来は各組毎に月曜日3組、水曜日2組、金曜日1組で行っている。延入院数は年間17,000人前後で、手術は約450例行っている。

【教育】学生教育には、鬼塚教授の“できるだけ学生との接触を密にし、交流を深める”という姿勢から、5年生には外来実習に加えてスモールレクチャーと称し鬼塚教授以下 松崎・中村・関屋が毎週1時間の講義を始めた。また、6年生にも従来の病棟実習、手術を中心にした教育から、教授・助教授の膝を交えた講義が毎週行われている。

【研究】臨床研究も変わりなく、活発に行われ、1組は胸腔鏡下手術 癌に対する温熱化学療法、stage a 肺癌に対する導入化学療法を進めている。2組は鬼塚教授の指導で機能温存を目的とした弁膜症治療 特に僧帽弁における弁形成術、無輸血開心術、さらに大動脈瘤に対するステント治療、小切開による低侵襲心臓手術も開始した。3組は内視鏡的消化器手術を中心に臨床研究を行い、その適応拡大に全力を上げて取り組んでいる。実験的研究では教室の重要テーマである補助循環（人工心臓を含む）に関する研究、心臓及び肺移植に関する研究、心筋保護に関する研究などを大学院生が中心になって継続して行っているが、特に最近では虚血再灌流傷害に対するアデノシンの ischemic preconditioning の心筋保護効果および重症心不全に対する両心補助下の NO（一酸化窒素）が右心機能に及ぼす影響などを研究中である。

今後外科学第2講座をよろしく願います。  
（医局長 なかむら くにひで 中村 都英）

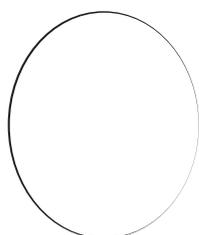
## 平成12年度 宮崎県医師会秋期医学会 健康スポーツ医学セミナー

と き 平成12年9月9日(土)

ところ 県医師会館

### 特別講演

#### 1. 中高年スポーツの現況と展望



健康スポーツ医学委員会  
委員 8年の経験から  
田代クリニック院長  
宮崎県医師会健康スポーツ  
医学委員会委員

田 代 学

欧米諸国において1960年頃から発展してきたスポーツによる健康づくり運動は、当時の日本の労働環境・生活環境などの要因から、国民に理解され、受け入れられる状況ではなかった。しかし、1980年代後半からは、成人病（生活習慣病）の増加に伴う健康教育の普及や労働時間の短縮による余暇時間の増加などにより、我が国においても運動による健康づくりに対する国民の意識が高まってきた。

このような社会状況を背景として、厚生省は1988（昭和63）年にアクティブ80ヘルスプランを、労働省も同年にTHP（健康測定医制度などのTHP（total health promotion plan））を施行するなど、行政による健康づくり事業が開始された。

一方、新聞記事によると日本医師会はすでに1986（昭和61）年には「基礎的な運動医学を身につけた専門ドクターを本格的に養成する動き」

をみせており、1991（平成3）年に日本医師会認定健康スポーツ医制度を開始した。翌1992（平成4）年、「日医健康スポーツ医」は、厚生省の「指定運動療法施設利用料金の医療費控除」に対する人的認定基準の一つとなり、スポーツによる国民の健康づくりにおける健康スポーツ医の役割の一つが明確とされた。

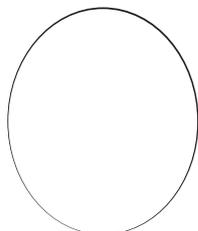
さらに、平成8年4月からは診療報酬に「運動療法指導管理料」が設定され、健康づくりのみならず、治療としてのスポーツも認知されてきているのが現況である。

このように、ここ15年ほどの間にスポーツによる健康づくりが急速に発展する中、日本医師会が健康スポーツにおける医師の役割に関して厚生省や労働省との整合性を図りつつある中、宮崎県医師会は早くも1989（平成元）年4月に「健康スポーツ医学委員会」を設置し、健康スポーツや健康スポーツ医の普及に努めてきた。

演者自身は1992（平成4）年4月から現在に至るまで足掛け9年にわたって同委員会に参画させていただいているが、以前の資料も含めて同委員会10年間の活動実績と健康スポーツに関する社会的状況を踏まえながら、まさにスポーツによる健康づくりが必要である年代である「中高年スポーツの現況と展望」について報告させていただきたい。

## 特別講演

## 2. 米国に於ける院内感染対策ならびに感染症治療の実際

福岡大学医学部内科学  
第一教授

田 村 和 夫

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) 感染, 保菌者は, 入院施設のある病院ではいつも悩まされる問題であるが, 最近では, セラチアをはじめとするグラム陰性桿菌による施設内の集団感染と敗血症, 死亡報告がマスコミをにぎわしている。院内感染症は, 急性発症で勝負が早く, 一方予防が可能という意味では他の疾患よりむしろ予防対策が重要と考えられる。

昨年1月に3週間かけてニューヨーク市ルーズベルト病院でエイズ研修を受けた。彼らが実際に行っている感染予防の考え方と対策を紹介したい。エイズ患者を扱うから特別の感染対策をとっているわけではなく, 基本的な予防対策を感染症コントロールナース(600床ほどの病院で2~3人)が中心となって全病院的に対策を練り, 指導・実施している。定期的に医師も含め医療者はすべて研修会に参加しなければならない。

感染予防対策は, 標準予防対策と感染経路別予防対策がある。前者は「全ての患者の湿性生体物質は感染性物質として扱う」ということを

原則に, 衣服の汚染の可能性があればガウン, プラスチックエプロンを, 飛沫汚染の可能性があればマスクやゴーグルを, 湿性生体物質に触る時は手袋着用, 手洗いを厳守することである。特に手洗いについては One procedure, One wash の原則をあらゆる所に張り出し遵守するように指導されている。次に感染経路別では血管を通しての感染が中心静脈栄養の発達や血管を使つての検査, 治療が進む中で急速に増えており, 米国では Blood stream infection (BSI) として全米院内感染サーベイランスが行われており, その結果が定期的に出されている。

$$\text{BSI 率} = \frac{\text{中心静脈ライン関連菌血症}}{\text{中心静脈ライン留置日数}} \times 1000$$

(1本のカテーテルを1000日間入れておくほどのくらいの率でBSIが起こるか)で報告されることになっており, 福大の場合5.1で平均的な値となっている。現在 移植患者を中心にBSI率を減少させるために, 三方活栓から半閉鎖式輸液ルートの導入, 中間カテーテルの使用を検討しているところである。

起炎菌としてはMRSA, コアグラゼ陰性ブドウ球菌が増加しており, これは外科, 内科一般病棟, 血液・腫瘍患者の多い病棟でも同様である。

米国で現在一番問題になっている感染症はエイズである。米国のエイズ診療の実際をHIV薬の使用状況と日和見感染対策を中心にして報告する。

## 宮崎県医師会秋期医学会・親善ゴルフ大会

と き 平成12年 9月10日(日)

ところ ハイビスカスゴルフクラブ

前日の秋期医学会に引き続き開催されました。

大会には、47名の参加があり、競技方法は18ホールズ ストロークプレイ ダブルペリア方式で行われました。当日は台風の余波により雨の日が続き、大変心配しておりましたが、幸い、天候にも恵まれ、熱戦が展開されて、何とか無事に大会を終了することができました。

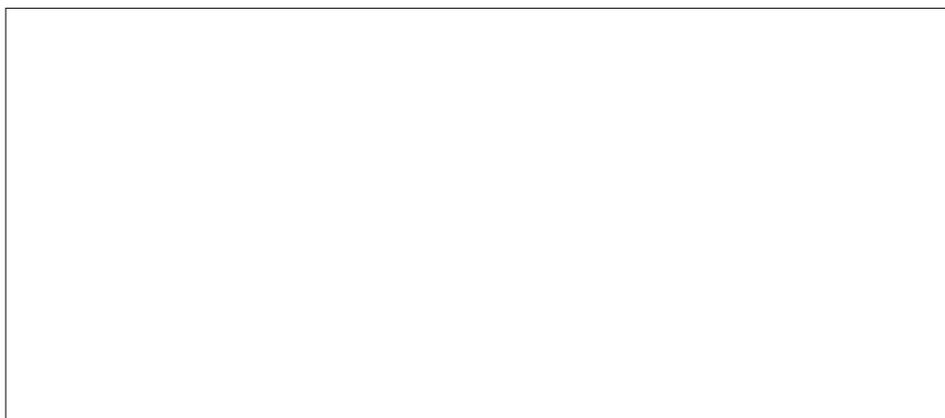
(成 績)

## 団 体 戦

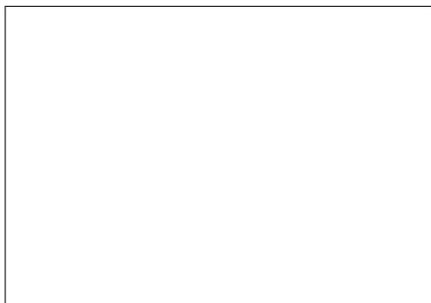
優 勝	宮崎市郡医師会	218.6
準優勝	都城市北諸県郡医師会	219.6
第3位	延岡市医師会	224.0

## 個 人 戦

(順位)	(氏 名)	(アウト)	(イン)	(グロス)	(ハンディ)	(ネット)
優 勝	志 多 武 彦	43	43	86	14.4	71.6
準優勝	藤 元 静二郎	44	41	85	13.2	71.8
第3位	佐 保 修 二	45	43	88	15.6	72.4
4 位	谷 脇 功 一	39	39	78	4.8	73.2
5 位	吉 井 理	40	38	78	4.8	73.2
6 位	濱 砂 重 仁	47	43	90	16.8	73.2
7 位	楠 原 敏 幸	48	45	93	19.2	73.8
8 位	棚 田 敏 文	37	37	74	0.0	74.0
9 位	三 股 俊 夫	42	38	80	6.0	74.0
10 位	速 見 晴 朗	43	46	89	14.4	74.6
B G 賞	棚 田 敏 文					
N P 賞	楠 原 敏 幸, 濱 砂 重 仁, 棚 田 敏 文, 稲 倉 正 孝, 水 元 淳 一, 安 藤 健 一, 川 崎 渉 一 郎, 大 藤 哲 郎					



## 団体戦優勝 宮崎市郡医師会チーム



毎年恒例の秋期医学会の親善ゴルフ大会が9月10日ハイビスカス G.C. で開催されました。

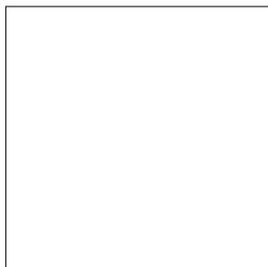
天気予報によれば曇りのち雨でしたが、実際は晴れ時々曇りで残暑の暑さを肌で感じながら、又風があったので陰では涼しさを感じることができました。

12組編成で47名が参加されました。団体戦は各地区上位3名の合計ネットで競われます。ダブルペリアですので、運と実力が噛み合わない上位入賞はできません。

宮崎市郡医師会が、個人戦優勝志多先生、6位小生、7位榎原先生の3人チームで都城医師会を1.0の僅差で破り、昨年に引き続き団体戦優勝をしました。ベストグロスやはり、榎田先生で74でした。小生が入賞できたのも一緒にラウンドした立元先生、吉田健先生、そして義弟の吉井先生のお陰だと感謝いたします。

私事ですがゴルフは、運動不足解消の為とときには人生を考えさせられ、又楽しさを味わわせてくれる最近唯一の趣味となりました。来年度、また多数のご参加をお待ちしております。（濱砂記）

## 個人戦優勝 志 多 武 彦



9月10日は台風14, 15号の接近にて降水確率80%の予報でしたが、当日は晴れ時々曇りの絶好のゴルフ日和となり、まずは天候に恵まれました。

2番目には、パートナーに恵まれました。大正14年生まれながら今も元気に週2回ラウンドされている超ベテランの明るい喜多省保先生、ドライバーが250ヤードを超えるすさまじい飛ばし屋ながら、あくまで控えめで紳士を地でいく南嶋洋一先生と大塚直純先生、御三方に感謝致します。

3番目には、スイングを力まず、リズムを大切にしたことだと思います。本当の所は最近ラウンド数が少なく力を入れて打つ自信がなかったのです。ひたすら左サイド中心にゆったり基本に忠実にプレーした積もりです。

最大の勝因は天才が発明したであろう「ダブルペリア方式」という実力のない者でも救われるルールであったと思います。

この「県医親善ゴルフ大会」は県医師会にとって唯一のスポーツ行事であり、愛好家の親睦を深めるものです。今年は47名の先生方の参加でしたが来年はもっと多くの参加があり賑やかな大会になったらと思っております。

## 第 22 回産業医活動推進全国会議

これは、労働省、日本医師会、産業医学振興財団、労働福祉事業団の4団体の主催で産業保健活動を推進する立場からそれぞれ説明指導があった。

### 1. 地域産業保健センター（産保センター）事業について

小規模事業所の健診受診率の低下、有所見率の高さは周知の事実であるが、その対策として

- 1) 産保センターに平成10年度から夜間及び休日の健康相談窓口の開催、母性健康管理を行う拡充センターを設置しているが、平成12年度までに全国72か所設置し今後さらに増やしていく。
- 2) 相談窓口を地域の医療機関で行ったら、相談者が多く非常に好評だった事例を踏まえ、混合診療の問題も含めて、次の要件を満たす場合のみ許可される。

産保センター運営協議会において医療機関をあらかじめ選定し、費用は委託費の範囲内で行うこと

診療と区別する為に、別に健康相談窓口を開設すること

認定産業医が対応すること

利用料は相談者からは徴収しないこと

活動状況を産保センターへ報告すること

- 3) 産業医選任事業について、さらに充実させる為に、共同選任医師へ必要な情報提供支援を行うこと。また、助成期間3年が終了した事業場に対して、産業保健活動の継続実施を勧奨指導してほしいこと。

### 2. 産業保健推進センターについて

と き：平成12年9月14日(木)

ところ：日本医師会

設置は、平成12年度までに全国38か所整備され、平成13年5か所、平成14年4か所設置予定で完備される。

九州では、宮崎、沖縄、佐賀県が未設置であるが、来年度の設置に向けて奮闘中である。

### 3. 深夜業務従事者の自発的健康診断制度について

深夜業務者は全労働者5072万人(1996年総務庁)の内、約670万人と推定され、深夜業務による健康障害を考慮し、今年の4月より労働安全衛生法を改正し施行されている。

- 1) 深夜とは、午後10時から午前5時までをいう。
- 2) 従事者とは、1月当たり4回以上深夜業務を行っている者
- 3) 自発的健康診断費用の助成がある。

自発的であるから、本人が健康に不安があるとせばいつでも受診できる。

定期健康診断の利用が一部免除され、健診受診促進のねらいがある。特に小規模事業所で活用して頂きたい。但し、助成金額は7500円を上限とする。

詳細については、県医まで。

### 4. 心の健康づくりのための指針について

近年、経済的不況、仕事の複雑化、精密化、且つスピード化、疲労、過労、忍耐力の低下等がメンタルに影響力を与える。

自殺者が3万人を優に超え、死因の第6位を占め、労働者のメンタルヘルス対策の重要性が指摘されている。

平成12年度、労働者のメンタルヘルス対策に関する検討会を開催し報告書が本年6月提

出された。

骨子としては、事業者が心の健康づくり計画を策定すること、その計画にもとづき

- 1) 労働者自身によるケア(セルフケア)
- 2) 管理者によるケア(ラインケア)
- 3) 産業医によるケア
- 4) 専門医によるケア

の4段階に分類し対策を推進する内容である。

#### 5. 日本医師会高瀬常任理事から

労働安全衛生法の改正を視野に入れ、産保センターの活性化の具体化、産業医選任基準の引き下げ(50人未満から30人未満へ)、認定産業医の活動評価、質の向上等に向けて、産業保健委員会と相談しながら対応していく。

#### 6. 協議事項

主な質問及び解答を下記に示す。

(問1) 一人の産業医が最大に契約できる事業所数と最大従業員の数はどのくらいか。

(答) 常識的に考えて、産業医として専念した場合、50人規模の事業所で20か所位であろう。有害業務を行っている難しい職場等によっても、数は異なるであろう。

産業医選任基準の引き下げの問題にも関与するので、現在のところ、事業所数の制限はない。

(問2) 地域産保センターの個別訪問相談窓口と社会保険庁が行っている訪問指導との整合性は。

(答) 現在のところ両方とも必要と考えている。

(問3) 安衛法13条に、産業医は健診の結果異常があり、その程度により、就業場所の変

更、作業転換、労働時間の短縮等を事業主に勧告できるとあるが、もし、勧告しなかった場合、危険予知義務違反或いは職務不履行に問われるか。

(答) 勧告しなくても法的責任はない。但し、民事裁判になった場合、罪を問われる場合がある。勧告する場合必ず文書に残しておくこと。

あとがき

労働者の果たすべき役割は、労働者自らが自己の健康に責任をもち、自助努力により自らの健康保持増進に努めることである。

健康日本21(平12年~平22年厚生省)では、死因第2位心疾患、第3位脳血管障害の一次予防を充実させる為、高血圧症、糖尿病、高脂血症、喫煙について、集団指導から個別指導に変化した。指導を受けたい希望者を特に対象としている点に注目したい。

産業医は実践活動である。実地研修ができる拠点の整備と共に、研修の内容を標準化することも必要であろう。そうなれば、全国一斉のテレビ研修も夢ではあるまい。

来年度、労働福祉省となった時、THPと健康日本21との住み分けはどうなるのであろうか。

日医では、産業保健委員会、労災自賠責委員会、健康スポーツ医学委員会の互いの連携強化が必要であろう。

出席者 - 濱砂常任理事  
伊東課長補佐

## 日医 FAX ニュースから

### 認定学校医制導入も視野に対応

山田常任理事

8月25日横浜市内で開催された関東甲信越静学校医協議会において、全体を総括した山田統正常任理事は、心身のバランスがとれた健全な児童・生徒を育成するうえで、学校保健に携わる職種と家庭、地域の連携が不可欠との認識を表明。日医主導で21世紀の学校医活動のあり方、学校保健における健康教育のあり方、学校医の資質の向上などについて検討を進めていく決意を示し、日医認定学校医制度の導入も視野に入れながら環境整備を図っていくと述べた。

(平成12年9月1日)

### 健政局予算要求

看護職員確保対策は0.8%増の  
116億3800万円

看護職員確保対策予算は0.8%増の116億3800万円。看護職員が集まりにくい医療機関に、就労確保を助言する専門家チームを派遣するなどの「看護職員就労確保総合支援事業」に8800万円(47か所)を新規要求した。またへき地など看護職員が不足している地域にある看護婦等養成所87校を重点的に支援することに4700万円を計上、看護職員の養成と確保対策を進める。177校を対象に准看護養成所のカリキュラム変更なども支援。1億1800万円を予算要求した。

(平成12年9月5日)

### 医療の質に着目した政策展開を

糸氏副会長

糸氏英吉副会長は9月5日会見し、社会保障制度改革の中期的ビジョンとして日医が提案する「2015年医療のグランドデザイン」を概説した。

グランドデザインは国民の自立率、生存率、就業率の引き上げ目標を設定し、その目標を実

現するための政策提言や財政シミュレーションを行っている。こうした構成にした意図について糸氏副会長は、「これからは国民の『生きがいのある命』を延ばすことを医療の質の評価として政策決定していかねばならない。まず(医療のアウトカムという)出口の議論をやってから財源の話をする流れに変えていく必要がある」と説明。財政に主眼を置いた政策から医療の質の評価に着目した政策への転換を促した。

(平成12年9月8日)

### 「准看護制度の廃止はない」と断言

羽生田俊常任理事は9月3日、熊本市で開かれた第37回九州首市医師会連絡協議会で、「看護職員の需給と准看護婦」と題して講演、「准看護制度は絶対になくならない」と断言するとともに、准看護婦(士)養成所に呼びかけて、全国教務主任協議会の設立をめざす考えを明らかにした。また、准看護婦の移行教育については、法改正が必要であり「少なくとも来年、再来年に始まることはない」と述べた。

(平成12年9月8日)

### 働きながら学ぶ6割は

「経済・家庭の事情」

九州首市医師会が准看護生徒2500人調査

佐賀市医師会の美川隆造会長は、9月2日の九州首市医師会連絡協議会「看護学校」分科会で、全生徒の6割が経済的な事情で働きながら学んでおり、7割が准看護制度の存続を望んでいるという准看護生徒の意識・実態調査結果を報告。具体的なデータに加え、社会人入学の増加傾向など「正看護婦への遠回りの次善の策」の意味合いにも触れ、准看護制度存続の必要性を唱えた。

働きながら准看護資格を得ることを決めた理由は、経済面を含む「家庭の事情」が62%を占め、本人の意思や受験の失敗など「本人の都合」は30%だった。59%の生徒が、働きながら学べる方法がなかったら「困る」と回答。68%が准看護制度存続を求めている。(平成12年9月12日)

## 薬価算定組織は保険診療を 熟知したメンバーに

菅谷忍常任理事は9月8日、薬価算定組織の設置が決まったことについて「今まで(中医協に)は事後報告という形で、(設定薬価が適正であるか)検討する材料もなかった。算定組織で薬価算定をすることになれば、ずいぶん違う形になるだろう」と薬価算定プロセス透明化への期待感を示した。組織のメンバー構成に関しては「学者となっているが、単なる学者ではなく、診療報酬や薬価について十分認識を持っている人とするようお願いしている」とし、保険診療、経済的妥当性という視点からのチェックを行う組織としても機能することになると見通した。

薬価算定組織は、薬価制度改革の日医案で薬価専門部会と併せて設置するように提案されていたもの。菅谷常任理事は「どのように薬価が決まったかが見える状態になれば、(ある意味では提案した目的を)達成したことになる」と述べた。薬価算定組織には、中医協委員は加わらない見通しだが、菅谷常任理事は保険診療を熟知したメンバーが選任されることで、中医協委員が加わるのと遜色ない機能が果たされるとの認識を示した。

薬価算定組織設置後も、保険収載の適否は従来通り日医疑義解釈委員会が判断し、薬価算定組織における審議は疑義解釈委員会が保険収載を了承してからとなる。また、薬価の最終決定は中医協総会で行うことから、菅谷常任理事は薬価収載手続きの入口にあたる疑義解釈委員会と出口にあたる中医協総会の2か所でチェック機能が働くことを示した。(平成12年9月15日)

## 被用者本人の受診抑制続く

外来薬剤一部負担の制度化や被用者本人負担の引き上げが行われた1997年9月の健康保険法改正で落ち込んだ被用者保険本人の医療費の伸

びは、改正から2年以上経過した今年3月時点でも依然回復していないことが、9月12日まとまった日医総研の報告書「移動年計からみた医療費動向(1986.4~2000.3)」(研究者=上野智明日医総研主任研究員)で明らかになった。報告書は受診抑制が被用者本人の将来の健康に及ぼす影響を懸念、「このことが将来の医療費となって跳ね返る恐れもあり、憂慮すべき、そして絶つべき悪循環である」と問題提起した。

(平成12年9月19日)

## 日医・学術推進会議の初会合

日本医師会・学術推進会議の初会合が9月20日、日医会館で開かれた。同会議は、従来の「生涯教育推進会議」にあたるもの。生涯教育に限定せず、医学教育、医学研究全般にわたる課題を総合的に検討していくとの趣旨から、改称した。今後2年をかけて坪井会長から諮問された「医学研究と医学教育の推進」について検討し、答申をまとめる。会議の座長には森巨日本医学会長、副座長には坂上正道日医参与が就任した。

医師養成をめぐるのは、専門教育に偏在したカリキュラムの改善、国家試験・卒後臨床研修のあり方、あるいは医療事故防止に関する教育をどのように仕組んでいくかといった様々な問題が山積している。初会合では、今後の議論の方向性についてフリートークが行われ、こうした個別的問題に捉われることなく、医学教育、医学研究全般にわたって共通して求められる「望ましい医師像」とはどのようなものか、日医はどのような役割を果たしていくべきなのか-などを検討していくことで、おおむね意見が一致した。

小泉副会長は会議終了後、「望ましい医師という理想像、目標を打ち出すと同時に、こうあっては困る、これだけは医師養成にとってあってはならないということをはっきり示すことにはならないか」と話した。

(平成12年9月26日)

## 医事紛争情報

メディファックスより転載

### 市が患者に150万円賠償

#### 「再手術」の説明不足

愛知県知多市は29日までに、同市が運営する知多市民病院で2回目の手術を受けた同県東海市の女性（30歳）をめぐり「2回目の手術が必要になることもある」とのインフォームドコンセント（十分な説明と同意）が不十分だったとして医療過誤を認め、慰謝料など150万円の損害賠償をすることを決めた。9月7日に開会する定例市議会で提案する。

知多市民病院によると、女性は産婦人科で1998年8月に手術を受けたが、同11月にも2回目の手術を受けた。女性は2回目の手術について、病院側から事前に説明がなかったとして今年3月24日、名古屋簡裁に損害賠償請求の調停を申し立てていた。同病院は「手術自体に問題がなかったと思うが『まれに再手術もあり得る』という説明が不足していた」としている。

（平成12年8月30日）

### 医療ミス5000万円で和解へ 北九州市

北九州市は30日までに、市立若松病院（岩切劭病院長）で椎間板ヘルニアの摘出手術を受け、直腸などに機能障害が生じた同市若松区の男性（57歳）に対し、医療ミスを認め5150万円を支払って和解する方針を固めた。

同市病院局によると、男性は1991年1月、座骨神経痛のためヘルニア摘出の手術を受けた。その際、神経の一部を損傷し、排せつ感がなくなるほどの知覚障害が生じた。男性は同病院で通院治療を続けたが、病院が「現状より改善す

る見込みがない」と判断。今年1月から補償交渉を始め、7月に合意した。

（平成12年8月31日）

### 東邦大病院側のミス認める 東京地裁

腰痛を訴え東邦大付属大橋病院（東京）に入院中、死亡した女性の両親が「医師が適切な治療を怠った」として東邦大に約5800万円の損害賠償を求めた訴訟の判決で、東京地裁は8月31日、東邦大に440万円の賠償を命じた。判決理由で土屋文昭裁判長は、女性の死因を髄膜炎と推認できるとしたうえで「医師は髄膜炎を疑い、手遅れとならないよう検査を行い治療する義務に違反した」と述べた。

判決によると、女性は高校3年だった1993年4月22日、腰の痛みを訴え、東邦大付属大橋病院に入院、その後、同病院で治療を続けたが頭痛や発熱、嘔吐を繰り返し、同年5月27日に死亡した。

（平成12年9月4日）

### 泉佐野市立病院で医療ミス

#### 女兒死亡、男性下半身まひ

大阪府泉佐野市立泉佐野病院（岸野文一郎院長）で昨年、小児科医（36）が当時生後8か月の女兒（同市）の腸重積を見逃し死亡させ、別の心臓血管外科医（39）は切断する必要のない男性（53、同府貝塚市）の右大腿神経を誤って切断、右下半身まひを招く医療ミスが相次いでいたことが、1日までにわかった。同病院は2件とも医療ミスと認め、女兒の遺族と男性に謝罪、計約5600万円の損害賠償金を支払うことで合意した。

同病院によると、女兒は昨年4月下旬に来院、嘔吐と血便の症状があった。腸重積の疑いがあったが、男性医師はエコー検査をせず腹部の触診

だけで急性胃腸炎と診断，抗生物質などを投与し帰宅させた。翌日未明に女兒は引きつけを起こし，同病院に隣接する府立泉州救命救急センターに運ばれたが，腸重積が悪化し死亡した。

男性は昨年1月下旬，右大腿動脈の仮性動脈瘤除去手術を受けた際，執刀した男性医師が右大腿神経を筋肉膜などほかの結合組織と間違えて切断。男性は右下半身がまひしてしまった。その後，ほかの神経を移植し，リハビリを重ねたため男性は歩けるようにはなったが，歩行など足に力を入れる動きには支障が残るといふ。

2医師のうち，女兒の腸重積を見逃した医師はすでに同病院を退職。岸野院長は「不幸な結果を招いたことにお詫びしたい。再発防止に向け教育を徹底する」と話している。

(平成12年9月5日)

## 患者をバーコードで識別

### 取り違え防止で東大病院

文部省は1日，患者の取り違えを防ぐために，東大病院で来春から患者のリストバンドにバーコードを付けて識別するシステムを導入すると発表した。ほかの国立大病院にも順次拡大する方針。来年度予算の概算請求に盛り込んだ。また，地域ブロックごとに大学病院のスタッフによる調査チームを編成し，相互チェックを実施することも明らかにした。安全管理の態勢が機能しているか，職員への教育や研修が十分に行われているかなどを検証しようという。

(平成12年9月5日)

## 手術ミスで死亡，医師の過失認定

### 横浜地裁

神奈川県茅ヶ崎市の男性（当時65）が，ヘルニアの手術後に容体が急変し死亡したのは，医

師の手術ミスが原因として，男性の遺族3人が相模原病院（同県座間市）を運営する医療法人興生会（同）に約1億円の損害賠償を求めた訴訟の判決で，横浜地裁は6日までに，同会に慰謝料など計約4300万円の支払いを命じた。

池田亮一裁判長は，医師が手術の際，注意を怠って血管を傷つけ，死因につながる手術後の出血を招いたほか，手術後の経過観察も十分に行わなかったと認定。同会側の「出血がないことを十分確認して腹膜を閉鎖しており，過失はなかった」との主張を退けた。

判決によると，男性は1994年10月ごろから下腹部に痛みを感じ，ヘルニアと診断を受けた。同年12月15日同病院で手術後，16日に腹部の血管からの出血が原因で死亡した。

(平成12年9月7日)

## 興奮剤投与ミスと賠償命令

### 京都地裁

股関節の手術後に死亡した大津市の主婦（当時53）の遺族が，麻酔を覚ます興奮剤の使用ミスが原因として，京都市下京区の長井整形外科病院の長井淳院長らに計約4700万円の損害賠償を求めた訴訟の判決で，京都地裁の松本信弘裁判長は8日，「不適切に興奮剤を追加投与したのがショックの原因」などとして，約4500万円の支払を命じた。

判決によると，主婦は1994年4月，同病院で股関節の手術後，全身麻酔を覚ますため興奮剤を投与されたが効果があられず，麻酔科医師は麻酔のかけ具合を十分に検討せずに興奮剤を追加した。主婦は心停止状態になったが，手術を担当した院長は心臓マッサージなどをせず，主婦は意識が回復しないまま同年5月死亡した。

長井院長は「判決文を見ていないのでコメントできない」としている。（平成12年9月12日）

医師国保組合だより

## 平成12年度 宮崎県医師国民健康保険組合 第83回通常組合会議事録

(公 示)

宮崎県医師国民健康保険組合は、平成12年7月28日第83回通常組合会を開催し、下記議事録のとおり認可申請を行い、宮崎県知事の認可を得ましたので公示します。

認 可 書 (写)

シレイ248-323

宮崎市和知川原1丁目101番地

宮崎県医師国民健康保険組合

平成12年8月7日付け宮医国保発第19号で申請のあった貴組合の議決事項については、国民健康保険法第27条の規定に基づき、認可します。

平成12年8月16日

宮崎県知事 松 形 祐 堯 ㊞

記

1. 平成11年度歳入歳出差引剰余金の処分

1. 開催日時 平成12年7月28日(金) 19:00~20:00
2. 場 所 宮崎県医師会館 4階研修室
3. 出席議員
 

1. 猪 島 康 公	13. 貴 島 亨
2. 田 崎 高 伸	14. 浜 田 義 次
3. 下 村 雅 伯	15. 折 津 達
4. 川 島 謙一郎	16. 是 枝 紀 人
6. 内 田 攻	17. 甲 斐 允 雄
7. 元 村 祐 三	18. 野 村 英 輔
9. 佐 藤 雄 一	19. 赤 須 正 道
11. 福 永 隆 幸	21. 浦 上 裕
12. 瀬ノ口 敬 介	22. 黒 木 俊 男

- |             |               |
|-------------|---------------|
| 23. 大 森 史 彦 | 28. 平 塚 正 伸   |
| 24. 川 越 勝 秀 | 29. 後 藤 幸 一   |
| 26. 堀 英 晴   | 30. 上 山 征 史 郎 |

議員定数 30名

出席議員 24名

4. 出席理事 10名

- |       |           |
|-------|-----------|
| 理 事 長 | 秦 喜八郎     |
| 副理事長  | 大 坪 睦 郎   |
| "     | 志 多 武 彦   |
| 常務理事  | 永 友 和 之   |
| 理 事   | 西 村 篤 乃   |
| "     | 早 稲 田 芳 男 |
| "     | 瀬ノ口 頼 久   |
| "     | 佐 藤 靖 美   |
| "     | 外 山 衛     |
| "     | 高 崎 直 哉   |

5. 出席監事 2名

- |     |         |
|-----|---------|
| 監 事 | 井ノ口 寛   |
| "   | 柳 田 琢 也 |

6. 次 第

- (1) 仮議長互選
- (2) 仮議長開会宣言
- (3) 議長及び副議長互選
- (4) 議長及び副議長挨拶
- (5) 物故者に対し弔慰黙祷
- (6) 理事長挨拶
- (7) 議 事

議案第1号 平成11年度事業報告について

提案理由 国民健康保険法施行令第23条第1項の規定に基づき、組合会の認定を求めます。

議案第2号 平成11年度歳入歳出決算について

提案理由 国民健康保険法第27条第1項並びに同施行令第23条第1項の規定に基づき 組合会の議決を求めます。

議案第3号 平成11年度歳入歳出差し引き剰余金の処分について

提案理由 歳入歳出決算剰余金139,071,372円の内、給付費支払準備積立金に40,000,000円を積立て、職員退職給与準備積立金に5,000,000円を積立て、残金94,071,372円を翌年度繰越金とするため、国民健康保険法第27条第1項の規定に基づき、組合会の議決を求めます。

(8) 協 議

(9) 理事長謝辞

(10) 議長閉会宣言

議事の状況

1. 開 会

事務長 ご案内申し上げます。

定刻になりましたので只今から第83回通常組合会が開会されます。

今回は、組合会議員の改選後、最初の組合会でありますから規約第26条の規定により、議長及び副議長を互選していただく必要がございます。議長が選出されるまでは、仮議長により運営されることとなりますので、次第に基づきまして、まず、仮議長の互選をお願いいたします。

慣例によりますと、仮議長は、年長議員の先生をお願いしておりますが、本日の仮議長も慣例どおりでよろしいでしょうか。

議員一同 異議なし

事務長 それでは、本日の出席者のうち最年長の先生は、都城市北諸県郡支部の瀬ノ口敬介先生でございますから、暫時仮議長をお引き受けくださるようお願いいたします。

瀬ノ口先生、よろしく願いいたします。

2. 仮議長開会宣言

仮議長 年長者ということで仮議長を務めさせていただきます。

ご協力のほどよろしく願いいたします。

組合会議員の定数は30名、現在の出席議員数は21名ですから、国民健康保険法施行令第13条の規定により組合会は成立いたしますので、只今から第83回通常組合会を開会いたします。

3. 議長及び仮議長互選

仮議長 議長及び副議長は、規約第26条の規定により 組合会議員の互選となっております。議長及び副議長の選出について、ご意見、ご提案があれば伺います。

いかがでしょうか。 (2番議員着席)

執行部に腹案はありませんか。

常務理事 慣例もございますので、議長には、只今仮議長をしていただいております瀬ノ口敬介先生を、副議長には、宮崎市郡支部の猪島康公先生はいかがかと思っております。

仮議長 只今執行部からご提案がありましたように議長は私、瀬ノ口敬介、副議長には猪島康公先生と決定することにご異議ありませんか。

議員一同 異議なし

仮議長 それでは、ご異議ありませんので、そのように決定いたしました。以上で、議長、副議長が互選されましたので、私の仮議長の役を終わらせていただきます。ご協力ありがとうございました。

事務長 ここで、当選者のご挨拶をお願いいたします。

4. 議長及び副議長挨拶

議 長 瀬ノ口でございます。誠意をもって執行にあたりますのでご協力をお願いいたします。

副議長 猪島でございます。よろしく願い

たします。

#### 5. 物故者に対し弔慰黙禱

議長 はじめに物故組合員の方々に対し、弔慰黙禱を捧げたいと思いますので、よろしくお願いします。

事務長に物故者の氏名を報告させます。

一同ご起立願います。

事務長 平成11年度中の物故組合員の氏名を朗読。

議長 黙禱

一同 弔慰黙禱

議長 お直りください。ありがとうございました。

ご着席ください。

#### 6. 理事長挨拶

議長 理事長のご挨拶をお願いします。

理事長 皆様こんばんは。台風接近の中をお集まりいただき、どうもありがとうございます。

常日頃、医師国保組合の健全な運営にご協力いただき感謝申し上げます。

現今の問題を三点ほどご報告し、皆様のご協力を得たいと考えております。

(23番議員着席)

一点目は、医師国保に対する補助金のカットであり、二点目は、介護保険の導入による医師国保への影響について、三点目は本年10月開催の全国の医師国保組合全体協議会についてであります。

まず、一点目の補助金カットの問題ですが、厚生省の事務当局で医師国保組合は、富裕組合であり未だに2組合が10割給付を実施しているような状況では、補助金をつける必要はないとの話がございました。自家診療を厳しく制限し、どうにか黒字経営を行っているのが現状です。富裕組合である、給付率も高いとか、とかく批判的になっており、将来的には健康保険並の8割給付も考える必要があ

ります。

次に二点目は、介護保険の影響ですが、医師国保組合としては老人保健の2割程度が介護保険分と言われておりますが、そうなると、老健拠出金が減るということになります。ただ、組合員の先生方の台所が、福祉をおやりになっている先生方は別として、医療保険とか救急医療をやっておられるところでは、明らかに苦しくなります。4月分は、11.7%の減収となっているようです。もう少し経過を見ていくことが必要でしょうが、1~2割も減収となると大問題です。

三点目は、10月の全医連の大会です。47年に1回廻ってくる訳で、もちろん、本組合では初めてのこともありますし、気合いを入れてやろうと思っております。ここで、お願いですが、10月21日各県の先生方が九州・沖縄を観光される日に鹿児島県医師会館の新築落成披露が予定されております。観光バスには各県の役職員が添乗することになっておりますが、そのような事情で鹿児島県の場合、添乗する役職員の確保が難しいのではと危惧しております。鹿児島にお詳しい先生方にぜひ同乗いただけたらと考えております。以上3つの点をお願いします。本日は、ご審議のほど、どうかよろしく願いいたします。

#### 7. 議 事

議長 それでは、議事に入ります。

議案第1号を事務長に朗読させます。

事務長 議案第1号 平成11年度事業報告について、提案理由も朗読。(24番議員着席)

議長 執行部の説明をお願いします。

常務理事 議案書を詳細に報告。

議長 本案についてご質問はありませんか。

議員一同 質問なし

議長 質問がないようですから、採決いたします。

議案第1号「平成11年度事業報告について」を承認することに賛成の方は、挙手を願います。

議員一同 全員挙手

議長 挙手全員。よって本案は可決承認されました。

次に議案第2号を事務長に朗読させます。

事務長 議案第2号 平成11年度歳入歳出決算について、提案理由も朗読。

議長 執行部の説明をお願いします。

常務理事 議案書を詳細に説明。

議長 ありがとうございます。次に監事の監査結果の報告をお願いします。

井ノ口監事 監査結果を報告。

議長 本案について、ご質問はありませんか。

議員一同 質問なし

議長 質問がないようですから、採決いたします。

議案第2号「平成11年度歳入歳出決算について」を承認することに賛成の方は挙手を願います。

議員一同 全員挙手

議長 挙手全員。議案第2号は可決承認されました。

次に議案第3号を事務長に朗読させます。

事務長 議案第3号 平成11年度歳入歳出差引剰余金の処分について、提案理由も朗読。

議長 執行部の説明をお願いします。

常務理事 詳細に説明。

議長 本案についてご質問はありませんか。

議員一同 質問なし

議長 質問がないようですから、採決いたします。

議案第3号「平成11年度歳入歳出差引剰余金の処分について」を承認することに賛成の方は挙手を願います。

議員一同 全員挙手

議長 挙手全員。よって本案は可決承認されました。

#### 8. 協議

議長 次は協議となっておりますが、執行部から何かありましたらどうぞ。

副理事長 全国医師国民健康保険組合第38回全体協議会のスケジュール、シンポジウム、特別講演それに観光について詳細に説明。

議長 なにもございませんか。組合会議員の先生方もございませんか。

議員一同 発言なし

議長 ないようですから、これで終わります。

#### 9. 理事長謝辞

議長 それでは理事長の謝辞をお願いいたします。

理事長 熱心にご審議いただき感謝申しあげます。議長さん、副議長さんも申されましたが誠心誠意、誠実にことにあたりたいと思いますので、よろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

#### 10. 議長閉会宣言

議長 以上で本日の組合会の日程は全部終了いたしました。

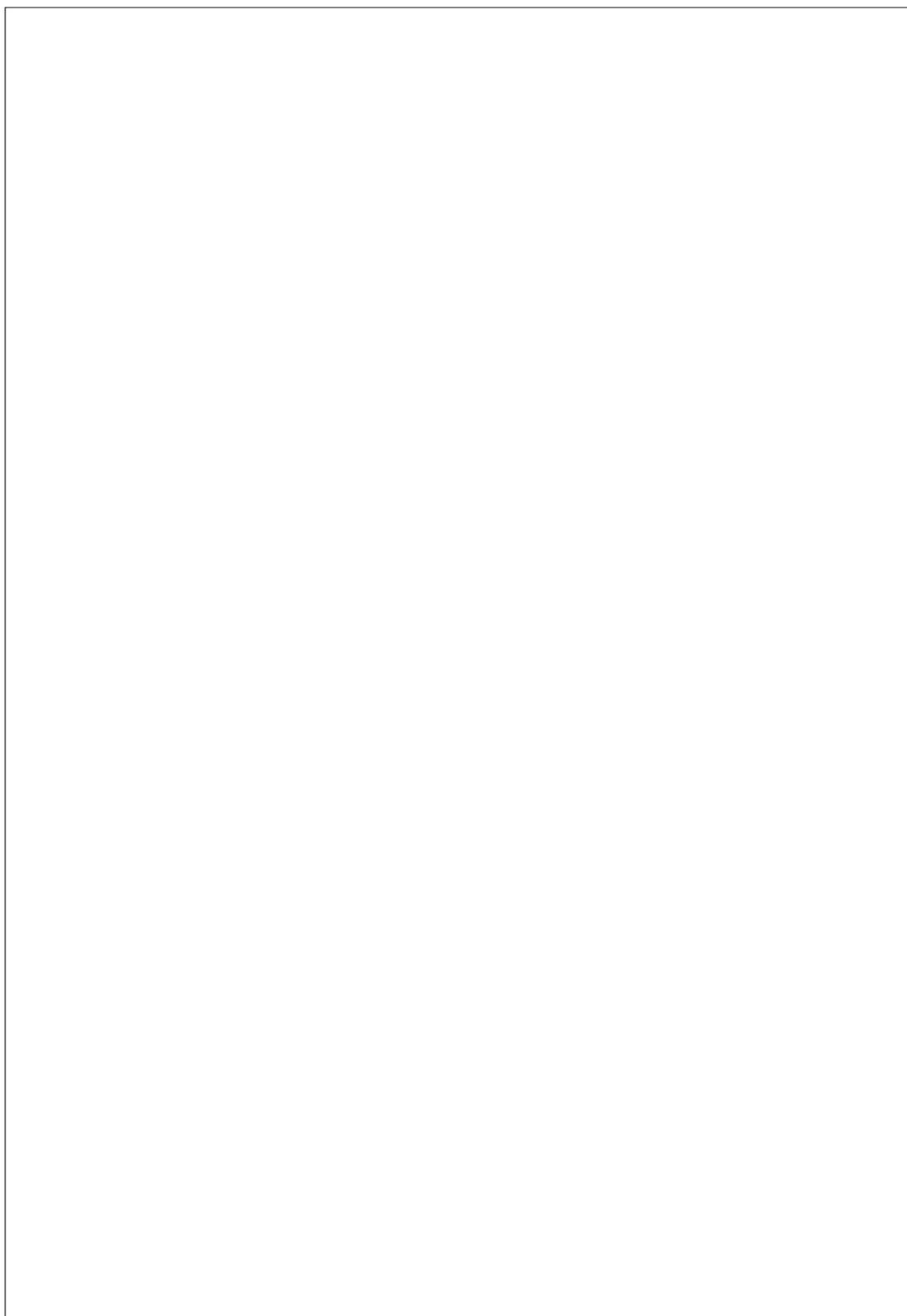
これをもって閉会いたします。

みなさんご苦労様でした。

以上

平成12年7月28日

組合会議長 瀬ノ口 敬 介

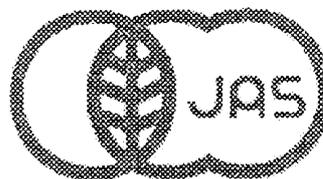


## 薬事情報センターだより (162)

## 有機 JAS マーク

右のようなマークをすでにご覧になった方もいらっしゃると思います。このマークは今年の6月10日から施行された改正日本農林規格(JAS)法に基づく有機食品であることを示すマークです。一般公募され、応募作品の中から選ばれました。このマークは左に太陽、右に雲を図案化したものが重なり合って葉の造形をつくりだしています。これにより化学肥料や農薬などの化学物質に頼らずに自然界の力で育て、そして育った農作物であることを表現しているそうです。また、正円の基本形からなり、全体的に丸みをもち、人や環境においてもやさしいものであることを表現しているそうです。さらに、マークの下には、有機の認証を行った登録認定機関の名称が記載されることとなっています。

これまででは、有機農作物の表示については農林水産省のガイドラインによって表示方法が決められ、表示の適正化が図られてきましたが、ガイドラインには法的な強制力がなく、違反しても罰則がありませんでした。そのため、ガイドライン施行後も、様々な有機表示が出回り、消費者及び生産者の双方から、有機食品に関する適正な表示を求める要望が高まってきました。そこで、今回、第三者機関による認証制度が導入され、登録認定機関の検査・認証を受けたもののみが「有機」の表示を行い、有機 JAS マークを貼付することができるようになりました。この登録認定機関には一定の資格要件を満たしていれば、だれでもなれます。そのため、民間企業だけでなく民間非営利団体などもこの認証機関になるものと思われます。また、これに違反した場合には、従来のガイドラインと異



登録認定機関名

なり1年以下の懲役か100万円以下の罰金が課せられることとなっており、実効性を高めています。

有機 JAS マークを貼付できる農作物とは、野菜なら原則2年以上、果樹なら3年以上化学合成農薬や化学肥料を一切使用されていない農場で栽培されたもので、その他のいくつかの基準を満たしたものであると農林水産大臣の登録を受けた第三者機関が認証したものです。また、放射線照射したものや遺伝子組み換えされたものには使用できません。

しかし、このような栽培方法を満たす農作物は国内で生産される量の1%にも満たない見通しです。また、この認証を受けるための費用は生産者負担となるため、すでに、割高なこれら農作物の出荷価格に、さらにこれらの費用を転嫁できるのかという問題もあり、認証を受けようという動きがどこまで広がるか不透明な部分もあります。しかしながら、「有機」への消費者ニーズは高いものと思われ、そのような生産方法をより安価に効率的に実施するための研究に弾みが付く可能性もあり、そのような方法が実用化されれば、生産者及び消費者にとってだけでなく、環境への負荷も軽減される有益な栽培方法となるものと思われます。

## 宮崎県医師協同組合相談窓口から

本組合では地域医療の存続を支援するため「開業医承継相談窓口」及び「医療法人（一人）設立相談窓口」を常時設置しております。

また融資・再就職（ドクターバンク）等についてもお気軽にご相談ください。

### ・開業医承継相談

医療機関の譲渡，賃貸について

社会福祉医療事業団の開業医承継支援事業の登録についてお手伝い致します。

譲渡希望医，開業希望医（勤務医）の希望条件の合った方々のご紹介を致します。

#### 1）病院

売却若しくは賃貸，購入等希望者は情報をお寄せ下さい。

#### 2）診療所

権利の譲渡または賃貸希望者は情報をお寄せ下さい。

### ・医療法人（一人）設立相談

#### 1）設立について相談 2件

### ・その他

#### 1）医療機関から求人（医師）

#### 2）開業相談 1件

#### 3）融資について 1件

お申し込み，お問い合わせ，各種相談に応じます。

**宮崎県医師協同組合**

☎ (0985) 23-9100 ・ FAX (0985) 23-9179

## 生命保険・損害保険の相談コーナー

### 相談事例：40歳・男性・医療法人理事長

「勤められるがままに貯蓄性のある養老保険を5,300万円契約しています。しかし、法人で設備資金8億 個人で住宅資金3,100万円の借入れがあります。また、4歳と2歳の子供がおり、妻を含めた家族の保障も気になっています。将来的には65歳～70歳を引退の時期と考えています。会計士から生命保険の見直しを提案されましたが、会計士の提案も保障額は4億円にとどまっており、釈然としません。」

### 回 答

#### (1) プランニングに際しての方向性

「先生の場合は、生命保険のプランニングに際して最も重要な加入が明確になっています。後は、質問 の返済残高の推移と、 のご家族の為の保障に必要な金額の推移及びその期間を明確にすれば良い訳です。そして、実際の商品選択の際に の引退時期にプランニングした保険を解約し、その解約返戻金を法人からの退職金として受け取ることができる様にすれば、よりベターかと思われます。」

#### (2) プランニングに際しての注意点

「法人債務を生命保険で相殺するために必要な保障額は、実際の債務額より多くする必要があります。(保険金は、法人が受け取った場合雑収計上され課税される為。) 税率を40%と仮定すると、8億の返済をするためには約13億の契約が必要になります。(受け取った保険金から課税額を除いて返済。保険金の6割が返済原資。)」

~~~~~  
ここでは、紙面の関係から法人契約分についてのみご案内いたします。

#### (3) 実際のプランニングと現状及び会計士からの提案比較

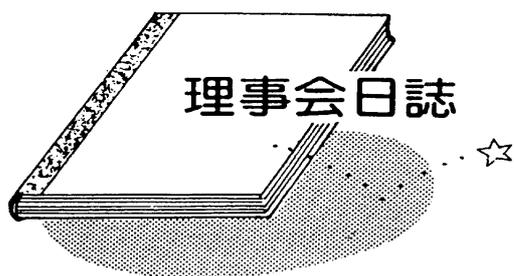
|                       | 現 状         | 会 計 士       | 本件プランニング        |
|-----------------------|-------------|-------------|-----------------|
| 保 障 額                 | 5,300万円     | 4億円         | 13億円            |
| 退 職 金 準 備<br>(65歳解約時) | 800万円       | 1億2,800万円   | 1億200万円         |
| 月 額 保 険 料             | 128,000円    | 480,000円    | 730,000円        |
| 保 険 料 の 変 化           | 期間中一定(50歳迄) | 期間中一定(60歳迄) | 73万円→10万円(70歳迄) |
| 保 険 種 類               | 養老保険        | 長期平準定期保険    | 逓減定期付終身保険       |

#### 本件プランニングの保険料推移

| 理事長年齢 | 50歳迄     | 55歳迄     | 60歳迄     | 65歳迄     | 70歳迄     |
|-------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 保険料推移 | 730,000円 | 690,000円 | 540,000円 | 350,000円 | 100,000円 |

#### (4) プランニングの効果

保険料は、現状からするとかなり高額になりましたが、当初予算(月額100万円)を下回りました。借入金対策が万全になり、かつ退職金準備もほぼ予定通りです。



平成12年9月5日(火) 第9回常任理事会

医師会関係

(報告事項)

1. 週間報告について
2. 平成12年8月末日現在 宮崎県医師会会員数について  
A会員783名, B会員761名, 計1,544名
3. 8/30(水) 日医認定産業医制度関係小委員会について  
今後の産業医研修会の内容等について検討した。
4. 9/2(土) 産業医研修会について  
基礎の前期研修。加藤貴彦 宮医大公衆衛生教授他の講演を行った。
5. 8/30(水) 労災診療指導委員会について  
レセプト審査を行った。
6. 8/31(木) 介護保険委員会について  
25ページ参照
7. 8/31(木) 宮医大医学部6年生公衆衛生学実習について  
大坪・志多両副会長, 稲倉・西村・早稲田・河野各常任理事が対応した。  
午前中はレポートを書かせて, 午後はスモールグループディスカッションを行った。  
学生のマナーが大変良かった。
8. 10/14(土)(延岡) 保険研修会の開催場所変更について  
延岡地区の会場が「ニュー天照閣のべおか」から「延岡市社会福祉センター」に, 時間が14:30~16:40に変更になった。
9. 9/5(火) 成人病検診管理指導協議会胃がん部会について

胃がん検診実施機関及び精密検査機関の登録審査。

10. 9/2(土)(日医) 日医患者の安全に関するセミナーについて  
27ページ参照
11. 9/5(火) 成人病検診管理指導協議会大腸がん部会について  
大腸がん検診実施機関と精密検査機関の登録審査。
12. 平成12年度学校医報酬基準額について (協議事項)
  1. 県公害審査会委員推薦について  
外山常任理事を推薦。
  2. 11/10(金)(日南市) 第40回宮崎県精神保健福祉大会への出席について  
外山常任理事が会長代理で出席する。
  3. 10/18(水) 宮崎中部地域産業保健センター運営協議会の平成12年度第1回会議の開催について  
濱砂常任理事が出席。
  4. 平成12年度在宅医療の推進のための実地研修事業実施に伴うアンケート調査について  
今年度は, 2地区の医師会病院での実地研修を予定。
  5. 母体保護法指定医師申請について
  6. 10月の行事予定について
  7. 全国の医師会員に対する義援金の緊急呼び掛けについて

平成12年9月12日(火) 第13回全理事会

医師会関係

(報告事項)

1. 8/22(火)(熊本) 九州・沖縄地区治験協議会について
2. 9/1(金) 互助会会計監査について
3. 9/6(水) 医家芸術展世話人会について
4. 9/11(月) 県社会福祉協議会運営適正化委員会について
5. 9/6(水)(日医) 日医社会保険診療報酬検討委員会について
6. 平成12年度の医療法第25条の規定に基づく

- 立ち入り検査の実施について
7. 9/7(木) 健康教育委員会について
8. 9/9(土)・10(日)県医秋期医学会・県医親善ゴルフ大会について
9. 9/11(月) 広報委員会について
10. 9/12(火) 県介護支援専門員連絡協議会理事会について  
(協議事項)
1. 坪井日医会長の世界医師会長就任祝賀事業への協賛金について  
協賛することになった。
2. 11/18(土)(熊本)九州医師会連合会委員・九州医師会役員合同協議会における日本医師会への質問・要望事項について
3. 10/7(土) 第8回宮崎県警察医会総会・特別講演会の際、懇親会への出席依頼について  
秦 会長、早稲田常任理事が出席。
4. 10/19(木) 平成12年度宮崎社会福祉フェアの開催について  
行事と重なるため欠席。
5. 10/19(木) 平成12年度宮崎社会福祉フェアの開催に伴う後援依頼について  
承認された。
6. 宮崎地方労働基準審議会委員候補者の推薦について  
河野常任理事の推薦が決定。
7. 宮崎県老人保健事業推進功労者表彰の被表彰候補者の推薦について  
推薦候補者について協議・決定した。
8. 入会時負担金について  
種々の問題が議論された。
9. 三宅島噴火災害、新島・神津島近海地震被災者救援のための義援金について  
54ページ参照
10. 10/28(土) 第13回県内医師会病院連絡協議会について  
早稲田常任理事の出席が決定。
11. 10/14(土) 平成12年度プライマリ・ケア研究会開催について  
役割分担について検討。
12. 11/16(木)(日医)平成12年度都道府県医師会広報担当理事連絡協議会開催について  
富田常任理事が出席。
13. 9/27(水) 宮崎県医師会介護支援専門員(ケアマネジャー)連絡協議会(仮称)第2回設立準備委員会の開催について
14. 11/8(水)(福岡)平成12年度産業保健推進センターブロック所長会議開催案内について  
濱砂常任理事が出席。
15. 9/16(土) 予防接種に関する講演会について  
多数の出席が見込まれている。
16. 11/26(日) 子どもの虐待防止に関するシンポジウム(案)について  
医師、看護婦、保母、その他医療関係者を対象として開催。
7. 11/10(金)(日医)平成12年度都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会の開催について  
浜田理事、濱砂常任理事が出席。
18. 互助会定期預金満期更新について  
医師国保組合関係  
(報告事項)
1. 9/8(金)(東京)全医連決算監査について  
2. 9/8(金)(東京)全医連理事会について  
決議(案)が承認された。
- (協議事項)
1. 10/20(金)~22(日) 全医連第8回全体協議会業務分担(案)について  
役・職員の業務分担が決定。
2. 傷病手当金の支給申請について  
医師連盟関係  
(協議事項)
1. 10/17(火) 第5回武見セミナー発起人ご受諾のお願いについて  
秦 委員長が発起人になることが承認された。
- 平成12年9月19日(火) 第10回常任理事会  
医師会関係  
(報告事項)
1. 週間報告について  
2. 10/12(木) 集団的個別指導の実施について

- 19医療機関を対象にして、県医師会館で実施する。
3. 政府管掌健康保険被保険者症の更新について  
平成13年1月1日～3月31日までの間に更新。現行の被保険者症は、平成13年3月31日限りで無効。新保険者症は、オレンジ色地に黒刷り。  
医療機関窓口へポスター掲示依頼（発送は9月末の予定）。
4. 9/13(水) (日医) 苦情・相談受付窓口業務のため講習会について  
医師賠償責任保険論、紛争・訴訟予防論等について充実した講習があった。
5. 医療施設における医療事故防止対策の強化について  
全国的にも医療事故が相次いで発生しているため、事故防止対策の強化について周知徹底を図って欲しい旨の通知。
6. 平成12年度の地方交付税における学校保健関係の財源措置について  
学校医報酬等の財源措置が示されたが、ほぼ前年どおりであった。
7. 9/13(水) (日医) 日医年金委員会について  
郡市医師会において、新入会員へ加入推進P・Rをしていただきたい。
8. 9/13(水) 成人病検診管理指導協議会肺がん部会について  
肺がん検診実施機関及び精密検査機関の登録審査を行った。
9. 9/14(木) (日医) 産業保健活動推進全国会議について  
36ページ参照
10. 9/16(土)・17(日) (福岡) 全国医師会共同利用施設総会について
11. 9/16(土) 予防摂取に関する講演会について  
植田九大医学部名誉教授および雪下國雄日本医師会常任理事の講演を行った。出席者225名と大変盛会であった。
12. 9/16(土) 緩和ケア講演会について  
約700名が出席。
13. 9/18(月) 宮医大医の倫理委員会について  
委員は、学内5名、学外5名で構成。  
直接人間を対象として医学研究をする場合は、委員会に諮り承認を得て実施されている。今回は「遺伝子解析」等5題。
14. 准看護婦試験委員等の変更について  
平成12年3月30日付けで告示された厚生大臣の定める基準に基づき、試験内容等の見直しが行われる。
- (協議事項)
1. 出産前小児保健指導事業(プレネイタル・ビジット)について  
産婦人科医が保健指導を必要と認めた初産の妊婦等に対して、小児科医等による保健指導をする事業。  
実施主体は市町村。宮崎、都城で検討していただきたい。
2. 国民健康保険診療報酬診査委員会委員(保険医代表)の推薦について  
任期が、本年12月31日をもって満了。各郡市医師会、各専門分科医会へ推薦を依頼することになった。
3. 平成12年度政府管掌健康保健「心の健康(メンタルヘルス)保持増進事業」の実施に伴う精神科医師の推薦について  
社会保険庁の委託事業。  
精神科医師への推薦を依頼する。
4. 宮崎県公衆衛生功労者表彰の被表彰候補者の推薦について  
推薦候補者について協議・決定した。
5. 施設会員加入のお願いについて  
日本がん検診・診断学会への施設会員加入が承認された。
6. 全日本鍼灸学会第9回九州ブロック学術集会宮崎大会開催の後援願いについて  
承認された。
7. 11/11(土) (日医) MDS方式によるケアプラン研修会の開催について  
各郡市医師会へは、日医総研より直接案内済。
8. 入院患者等の実態調査について

本年度も11月1日現在で実態調査を行う。

医師連盟関係  
(協議事項)

1. 保健・医療・福祉問題議員連盟について
2. 11/11(土)「大原一三政経セミナー」開催について  
早稲田常任執行委員が出席。

平成12年9月26日(火) 第14回全理事会

医師会関係  
(報告事項)

1. 9/21(木)・22(金)(滋賀)がん征圧全国大会について  
都城の久保 貫先生が日本対ガン協会賞を受賞された。
2. 9/25(月)(東京)支払基金理事会について  
議事後、支払基金における審査状況等の報告があった。
3. 給料振り込み手数料について
4. 9/13(水)(日医)日医労災・自賠償委員会について  
労災 = 肥満・血圧等の予防給付を認めさせることになった。  
自賠償 = 全国37都道府県が新基準を採用している。法制化した場合のメリット・デメリットについて今後検討して行く。
5. 9/21(木) 労災部会自賠委員会及び損害保険医療協議会について  
自賠償については、宮崎県はうまくいっている。事業主は労災に入っていないケースが多いので、なるべく任意加入したほうが良い。
6. 9/13(水) 医師年金普及推進懇談会について  
7月～10月は、日医年金普及推進強化運動期間。未加入者の加入促進に努力する。
7. 9/20(水) 医療保険委員会について  
委員長に市来 齊先生 副委員長に豊田清一先生を委嘱。  
会長の諮問事項は、  
「医療保険をめぐる諸問題について」  
診療報酬改訂への提言

介護保険と医療保険の整合性

高齢者医療制度と診療報酬体系の有り方

8. 9/21(木) 県政記者クラブとの懇談会について
9. 9/24(日) ひむか東洋医学研究会学術大会について  
会長代理で瀬ノ口常任理事が祝辞を述べた。約60名の出席。
10. 9/25(月) 医師会活性化委員会について  
委員長に中村典生先生、副委員長に菊池隆二先生を委嘱。  
会長諮問は、「会員が積極的に参加できる医師会のあり方について」。
11. 東京都三宅村の非難住民に対する乳幼児健康診査等の取り扱いについて  
県内市町村に避難されている三宅村住民の乳幼児健康診査は、県内の市町村の取扱と同様の対応をお願いしたい旨の協力依頼があった。
12. 個別指導(新規)の実施について  
22医療機関を対象として、実施される。  
(協議事項)
1. 医療機関における医療費の領収書発行について  
日医の通知文書を全会員へ流す。
2. 資格関係誤りレセプト発生防止対策ポスターについて  
ポスターへの名義掲載について承認。
3. 現在の地方交付税制度の存続に関する要望書(案)について  
政府税制調査会で地方交付税縮小の論議がされており、関係先へ要望書を提出することに決定した。
4. 11/2(木) 平成12年度「ひむか愛の献血運動推進県民大会」の出席について  
会長出席。
5. 12/16(土)「もしも地雷がなかったら If There were No Mines」地雷犠牲者救援チャリティコンサートの後援について  
承認された。
6. 11/22(水) 宮崎県医薬品配置協議会創立50周



## 県 医 の 動 き

( 9 月 )

- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1 長峯基後援会代表者会(会長他)<br/>互助会会計監査(会長他)</p> <p>2 日医患者の安全に関するセミナー(日医)<br/>(西村常任理事)<br/>産業医研修会(前期)(濱砂常任理事他)</p> <p>2~3 九州首市医師会連絡協議会(熊本)<br/>(早稲田常任理事)</p> <p>4 宮崎政経懇話会(稲倉常任理事)<br/>県内科医会理事会(志多副会長他)</p> <p>5 成人病検診管理指導協議会大腸がん部会<br/>(稲倉常任理事)<br/>成人病検診管理指導協議会胃がん部会<br/>(志多副会長)<br/>都道府県医師会長協議会(日医)(会長)<br/>第9回常任理事会(大坪副会長他)<br/>宮母社保委員会</p> <p>6 日医社会保険診療報酬検討委員会(日医)<br/>(稲倉常任理事)<br/>医家芸術展世話人会(大坪副会長他)</p> <p>7 全医連準備小委員会(会長他)<br/>健康教育委員会(会長他)</p> <p>8 全医連決算監査(東京)(会長)<br/>全医連理事会(東京)(会長他)</p> <p>9 県医秋期医学会(会長他)</p> <p>10 県医親善ゴルフ大会(会長他)</p> <p>11 県社会福祉協議会運営適正化委員会苦情解決部会(大坪副会長)<br/>人事等管理委員会(会長他)<br/>広報委員会(会長他)</p> <p>12 県介護支援専門員連絡協議会理事会<br/>(河野常任理事他)<br/>第13回全理事会(会長他)<br/>各都市医師会長協議会(会長他)</p> <p>13 日医苦情・相談受付窓口業務のための講習会(日医)(西村常任理事)<br/>日医年金委員会(日医)(外山常任理事)<br/>日医労災・自賠責委員会(日医)(河野常任理事)<br/>成人病検診管理指導協議会肺がん部会<br/>(濱砂常任理事)<br/>医師年金普及推進懇談会(会長他)</p> <p>14 産業保健活動推進全国会議(日医)<br/>(濱砂常任理事)</p> <p>16 全国医師会共同利用施設総会(福岡)<br/>(志多副会長他)</p> | <p>予防接種に関する講演会(会長他)<br/>緩和ケア講演会(夏田常任理事)</p> <p>17 全国医師会共同利用施設総会(福岡)<br/>(早稲田常任理事)<br/>全医協連理事会(東京)(志多副会長)</p> <p>18 宮医大医の倫理委員会(大坪副会長)<br/>宮母(日産婦)会則等改正検討委員会<br/>(西村常任理事)<br/>県内科医会学術委員会(志多副会長他)</p> <p>19 第10回常任理事会(会長他)<br/>宮母献金委員会</p> <p>20 医療保険委員会(会長他)</p> <p>21 労災部会自賠委員会(河野常任理事)<br/>がん征圧全国大会レセプション(滋賀)<br/>(会長)<br/>損害保険医療協議会(河野常任理事)<br/>県政記者クラブとの懇談会(大坪副会長他)</p> <p>22 がん征圧全国大会(滋賀)(会長)</p> <p>23 九医協連通常総会(会長他)</p> <p>24 九医協連親善ゴルフ大会(会長他)<br/>ひむか東洋医学研究会学術大会<br/>(瀬ノ口常任理事)</p> <p>25 支払基金理事会(東京)(会長)<br/>宮母常任理事会(西村常任理事他)<br/>医師会活性化委員会(会長他)</p> <p>26 医協運営委員会(会長他)<br/>第14回全理事会(会長他)</p> <p>27 日医医療情報ネットワーク推進委員会<br/>(日医)(富田常任理事)<br/>日医会員の倫理向上委員会(日医)(会長)<br/>労災診療指導委員会(河野常任理事)<br/>支払基金幹事会<br/>広報委員会(高崎理事)<br/>介護支援専門員連絡協議会(仮称)設立準備委員会(志多副会長他)<br/>介護支援専門員連絡協議会設立総会・記念講演会(志多副会長他)</p> <p>28 全医連第2回事務長連絡会(志多副会長)<br/>都道府県医師会医療関係者担当理事連絡協議会(日医)(瀬ノ口常任理事)<br/>医療安全対策委員会(会長他)</p> <p>29 地域福祉権利擁護事業に係る契約締結審査会(早稲田常任理事)<br/>有床診療所協議会総会(稲倉常任理事他)</p> <p>30 日本医学会総会広報委員会(福岡)<br/>(志多副会長)<br/>園医部会総会・研修会(浜田理事)<br/>九医連常任委員会(熊本)(会長)<br/>九医連各種協議会(熊本)(大坪副会長他)</p> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## ニューメンバー

おき とういちろう  
沖 浩一郎

住 所：小林市大字細野  
59-8

専門科目：内科，小児科

家族構成：妻，長女（4），  
長男（2）

略 歴：

昭和57年 県立小林高校卒

平成2年 福岡大学医学部卒

同年 宮崎医科大学小児科入局

平成6年 福岡大学内科第1入局

平成9年 宮崎医科大学第2内科入局

平成12年 沖内科小児科医院

趣 味：読書，音楽

抱 負：この度，実家の沖内科小児科医院に勤務することとなりました。今度の医師会入会を契機に，医師会の諸先輩方の御指導の下，西諸県郡の地域医療に少しでも貢献できるよう努力していきたいと思っておりますので，よろしく願い申しあげます。

ひ よし まさ ひで  
旭 吉 雅 秀

住 所：宮崎市神宮1-131-203

専門科目：外科

略 歴：

平成4年 県立妻高校卒

平成10年 宮崎医科大学卒

同年 宮崎医科大学第1外科入局

趣 味：走ること

抱 負：はじめまして。医師になって3年目，患者さんの状態に一喜一憂して，毎日が新しいことの連続で外科医になったことを嬉しく思っている今日です。

唯一の趣味は中学時代からやっている陸上です。卒業後しばらくブランクがあったのですが，最近，昔を思い出して再開しました。時間を見つけては家の回り（近くに文化公園があります）をジョギングしています。自分の理想とするランニングフォームと現実とのギャップを埋めようと日々努力しています。

私なりに一生懸命頑張りますので，御指導，御鞭撻の程，よろしく願い致します。

## ニューメンバー

ながとも やす ひろ  
長 友 安 弘

住 所：宮崎市淀川1-2-9  
専門科目：内科，呼吸器，  
膠原病

略 歴：

昭和56年 県立宮崎南高校卒

昭和63年 宮崎医科大学卒

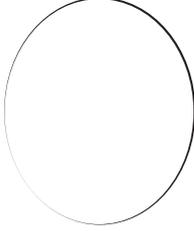
同年 宮崎医科大学第2内科入局

平成6年 川崎医科大学呼吸器内科

平成7年 宮崎医科大学第2内科医員

平成12年 医療法人任和会竹内病院

趣 味：音楽，将棋



抱 負：平成7年より宮崎医大第2内科で，  
主に呼吸器の診療にあたっていました。その  
際は，慢性関節リウマチを含めて膠原病肺も  
数多く経験いたしました。今回縁あって宮崎  
市内にある竹内病院に勤務させて頂くことと  
なりました。当院は結核病床を有しており，  
宮崎市外からも患者さんの御紹介を頂いてい  
ます。今後は喫煙教育，呼吸リハビリテーショ  
ン，睡眠時無呼吸症候群等の診療もできれば  
と考えています。どうぞよろしくお願い致します。



## 会 員 消 息

平成12年9月末現在 会員数 1,546名

( A 会 員 783 名 , B 会 員 763 名 )

( 男 性 1,419 名 , 女 性 127 名 )

### 入 会

|                  |             |          |                          |                                   |
|------------------|-------------|----------|--------------------------|-----------------------------------|
| B                | 柳澤 透 (延岡)   | H12.8.15 | (医) 博生会介護老健施設<br>エクセルライフ | 延岡市大貫町1丁目2850-1<br>☎0982-32-1550  |
| A                | 後庵 究 (宮崎)   | H12.8.18 | 山口整形外科内科                 | 宮崎市大島町原ノ前1445-41<br>☎0985-25-5500 |
| B                | 石坂 裕子 (宮崎)  | H12.9.1  | 自宅会員                     | 宮崎市祇園4丁目56<br>☎0985-29-6063       |
| B A <sup>2</sup> | 小野 誠治 (宮医大) | H12.9.1  | 宮崎医科大学・<br>放射線科          | 宮崎郡清武町大字木原5200<br>☎0985-85-2807   |
| B                | 加藤 貴彦 (宮医大) | H12.9.1  | 宮崎医科大学・<br>公衆衛生学         | 宮崎郡清武町大字木原5200<br>☎0985-85-0874   |
| B A <sup>2</sup> | 小宗 静男 (宮医大) | H12.9.1  | 宮崎医科大学・<br>耳鼻咽喉科         | 宮崎郡清武町大字木原5200<br>☎0985-85-2966   |
| B                | 今村 登志子 (宮崎) | H12.9.18 | (医) 同心会<br>古賀総合病院        | 宮崎市池内町数太木1749-1<br>☎0985-39-8888  |
| B                | 小澤 仁雄 (宮崎)  | H12.10.1 | 自宅会員                     | 宮崎市恒久6-14-7<br>☎0985-50-1165      |
| B                | 塩屋 敬一 (宮崎)  | H12.10.1 | 国立療養所<br>宮崎東病院           | 宮崎市大字田吉4374-1<br>☎0985-56-2311    |

### 異 動

|                  |                                         |          |                     |                                  |
|------------------|-----------------------------------------|----------|---------------------|----------------------------------|
| A                | 中山 健 (宮崎)<br>(有床から無床へ変更)                | H12.7.31 | (医) 社団健松会<br>中山医院   | 宮崎市霧島4丁目196<br>☎0985-26-3888     |
| A                | 丸田 重徳 (都城)<br>(B A <sup>2</sup> からAへ変更) | H12.8.1  | (医) 社団豊徳会<br>丸田病院   | 都城市八幡町4-2<br>☎0986-23-7060       |
| B A <sup>2</sup> | 丸田 美徳 (都城)<br>(AからB A <sup>2</sup> へ変更) | "        | "                   | "                                |
| A                | 瀬ノ口 敬介 (都城)<br>(医療機関名称変更)               | H12.8.2  | (医) 澈仁会<br>瀬ノ口医院    | 都城市姫城町12-4<br>☎0986-25-5155      |
| B                | 瀬ノ口 洋史 (都城)<br>( " )                    | "        | "                   | "                                |
| A                | 岡村 博道 (延岡)<br>(BからAへ変更)                 | H12.8.7  | (医) 社団嘉祥会<br>岡村病院   | 延岡市平原町1丁目1389-1<br>☎0982-21-5353 |
| B                | 櫛橋 弘喜 (宮崎)<br>(勤務先変更・延岡 宮崎)             | H12.8.16 | (医) 社団晴緑会<br>宮崎愛和病院 | 宮崎市高松町2-16<br>☎0985-26-2800      |
| B                | 稲津 明美 (宮崎)<br>(勤務先変更)                   | H12.9.1  | (医) 同心会<br>古賀総合病院   | 宮崎市池内町数太木1749-1<br>☎0985-39-8888 |

|     |                              |          |                                   |                                 |
|-----|------------------------------|----------|-----------------------------------|---------------------------------|
| B   | 古賀 繁喜 (宮崎)<br>(勤務先変更)        | H12.9.1  | (財)弘潤会<br>野崎病院                    | 宮崎市大字恒久5567<br>☎0985-51-3111    |
| A   | 田爪 靖史 (宮崎)<br>(法人へ変更)        | H12.9.1  | (医)杏仁会<br>タヅメ外科胃腸科医院              | 宮崎市宮脇町87-5<br>☎0985-26-2581     |
| B   | 野崎 藤子 (宮崎)<br>(勤務先変更)        | H12.9.1  | (財)弘潤会<br>野崎病院                    | 宮崎市大字恒久5567<br>☎0985-51-3111    |
| B   | 黒木 龍郎 (宮崎)<br>(勤務先変更)        | H12.9.1  | (財)弘潤会<br>野崎東病院                   | 宮崎市村角町高尊2105<br>☎0985-28-8555   |
| B   | 貫 慶嗣 (宮医大)<br>(勤務先変更・西都 宮医大) | H12.9.1  | 宮崎医科大学・<br>脳神経外科                  | 宮崎郡清武町大字木原5200<br>☎0985-85-3128 |
| A   | 大野 和男 (宮崎)<br>(勤務先変更)        | H12.9.19 | (財)潤和リハビリテー<br>ション振興財団            | 宮崎市大字小松1099<br>☎0985-47-3744    |
| B   | 渡邊 克司 (宮崎)<br>(勤務先変更・宮医大 宮崎) | H12.10.1 | (財)弘潤会<br>野崎病院                    | 宮崎市大字恒久5567<br>☎0985-51-3111    |
| 退 会 |                              |          |                                   |                                 |
| B   | 池田 徳郎 (宮崎)                   | H12.8.31 | (財)潤和リハビリテー<br>ション振興財団<br>潤和会記念病院 | 宮崎市大字小松1119<br>☎0985-47-5555    |
| B   | 西崎 悦郎 (都城)                   | H12.8.31 | (医)宏仁会<br>海老原記念病院                 | 都城市蔵原町10-18<br>☎0986-22-2240    |
| A   | 八田 純雄 (延岡)                   | H12.8.31 | (医)社団雄和会<br>八田病院                  | 延岡市柳沢町2丁目1-5<br>☎0982-33-2407   |
| B   | 加地 泰広 (西諸)                   | H12.8.31 | (医)三和会<br>池田病院                    | 小林市大字真方27-1<br>☎0984-23-3535    |
| B   | 大塚 伸昭 (宮崎)                   | H12.9.30 | 大同生命<br>宮崎支社                      | 宮崎市広島1丁目18-7<br>☎0985-23-6218   |
| B   | 斉田 和子 (宮崎)                   | H12.9.30 | 国立療養所<br>宮崎東病院                    | 宮崎市大字田吉4373-1<br>☎0985-56-2311  |

## 宮崎県医師会行事予定表

平成12年9月28日現在

| 10 |   | 月                                                                                                                             |      |                                                                                                                                               |                       |
|----|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|
| 1  | 日 | 10:00 (東京)全医協連広報部会<br>13:00 介護支援専門員実務研修受講試験対策研修会                                                                              | 18 水 | 15:00 (日医)日医社会保険研究委員会<br>17:00 宮崎中部地域産業保健センター運営協議会                                                                                            | ↑<br>国                |
| 2  | 月 | 19:00 全国勤務医部会連絡協議会準備委員会                                                                                                       | 19 木 |                                                                                                                                               |                       |
| 3  | 火 | 15:20 心豊かな長寿社会を考える国民の集い全国大会実行委員会<br>19:00 第11回常任理事会                                                                           | 20 金 | (県立美術館)医家芸術展<br>12:30 全国医師国保組合連合会代表者会議<br>13:30 全国医師国保組合連合会全体協議会                                                                              | 保<br>審<br>↓<br>査      |
| 4  | 水 | 13:30 (県警本部)県犯罪被害者等支援連絡協議会総会<br>14:00 (日医)日医社会保険診療報酬検討委員会<br>19:00 医家芸術展世話人会                                                  | 21 土 | (県立美術館)医家芸術展<br>8:00 全医連観光<br>14:30 産業医研修会                                                                                                    |                       |
| 5  | 木 |                                                                                                                               | 22 日 | (県立美術館)医家芸術展<br>8:30 全医連観光                                                                                                                    |                       |
| 6  | 金 | 18:00 県産業保健連絡協議会・県産業医研修連絡協議会                                                                                                  | 23 月 | 9:00 全医連観光<br>19:00 宮母常任理事会                                                                                                                   |                       |
| 7  | 土 | 15:00 県警察医会総会・特別講演会                                                                                                           | 24 火 | 15:00 県社会福祉協議会運営適正化委員会<br>介護保険給付費審査委員会<br>第13回常任理事会                                                                                           |                       |
| 8  | 日 |                                                                                                                               | 25 水 | 15:00 社会保険医療担当者の新規個別指導<br>15:00 支払基金幹事会<br>19:00 母体保護法指定医師審査委員会                                                                               |                       |
| 9  | 月 | (体育の日)                                                                                                                        | 26 木 | 15:00 労災診療指導委員会<br>15:30 (沖縄)九医連常任委員会<br>17:10 (沖縄)九州各県政令指定都市保健・医療・福祉主管部局長及び九州各県医師会長合同会議                                                      |                       |
| 10 | 火 | 19:00 第15回全理事会                                                                                                                | 27 金 | 17:00 (鳥取)全国医師会勤務医部会連絡協議会前日打合せ<br>19:00 広報委員会                                                                                                 |                       |
| 11 | 水 | 19:00 インフォームドコンセント等対策委員会                                                                                                      | 28 土 | 10:00 (鳥取)全国医師会勤務医部会連絡協議会<br>13:00 (広島)全医協連通常総会<br>14:00 宮母・日産婦臨時総会<br>14:00 (熊本)日臨内九州ブロック会議<br>15:30 (熊本)九州各県内科医会連絡協議会<br>16:00 県内医師会病院連絡協議会 | 社<br>保<br>審<br>↓<br>査 |
| 12 | 木 | 15:30 社会保険医療担当者の集団指導<br>19:00 会員福祉委員会<br>19:00 宮母諸会計監査                                                                        | 29 日 | 9:00 (熊本)九州各県内科診査委員懇話会<br>9:30 (広島)全医協連通常総会                                                                                                   |                       |
| 13 | 金 | 13:30 中央保健所運営協議会(健康づくり協会)                                                                                                     | 30 月 | 13:30 (東京)支払基金理事会<br>19:00 診療情報提供推進委員会                                                                                                        |                       |
| 14 | 土 | 14:30 プライマリ・ケア研究会・講演会<br>14:30 (福岡)九州学校検診協議会専門委員会<br>14:30 (延岡)保険研修会<br>15:00 (佐賀)日母医九州ブロック協議会<br>17:00 (福岡)九州各県医師会学校保健担当理事者会 | 31 火 | 18:00 医協運営委員会<br>19:00 第16回全理事会                                                                                                               |                       |
| 15 | 日 | 9:00 (佐賀)日母医九州ブロック協議会                                                                                                         |      |                                                                                                                                               |                       |
| 16 | 月 | 17:30 医協接遇研修<br>19:00 広報委員会<br>19:00 県内科医会医療保険委員会                                                                             |      |                                                                                                                                               |                       |
| 17 | 火 | 10:00 (日医)日医臨時代議員会<br>19:00 第12回常任理事会                                                                                         |      |                                                                                                                                               |                       |

都合により、変更になることがあります。

## 宮 崎 県 医 師 会 行 事 予 定 表

平成12年 9月28日現在

| 11 |   |                                                                                                        | 月  |   |                                                                                         |
|----|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | 水 | 15:00 県社会福祉協議会運営適正化委員会                                                                                 | 19 | 日 | (熊本)九医学分科会・記念行事                                                                         |
|    |   |                                                                                                        | 20 | 月 |                                                                                         |
| 2  | 木 | 13:30 ひむか愛の献血運動推進県民大会                                                                                  | 21 | 火 | 14:00(日医)都道府県医師会長協議会<br>19:00 第15回常任理事会                                                 |
| 3  | 金 | (文化の日)                                                                                                 |    |   |                                                                                         |
| 4  | 土 | 職員研修会                                                                                                  | 22 | 水 | 15:00 社会保険医療担当者の新規個別指導<br>15:00 支払基金幹事会<br>16:00 県医薬品配置協議会創立50周年記念式典・祝賀会                |
| 5  | 日 |                                                                                                        |    |   |                                                                                         |
| 6  | 月 |                                                                                                        |    |   |                                                                                         |
| 7  | 火 | 19:00 第14回常任理事会                                                                                        |    |   |                                                                                         |
| 8  | 水 | 13:30(福岡)産業保健推進センターブ<br>ロック所長会議<br>14:00(日医)日医労災・自賠責委員会<br>14:00(日医)日医連執行委員・小選挙<br>区担当責任者・支援団体合同会<br>議 | 23 | 木 | (勤労感謝の日)                                                                                |
|    |   |                                                                                                        | 24 | 金 | 18:00 上杉光弘君の政治活動30年を語り励ます会<br>19:00 ホスピスマインド育成事業末期医療対策研修会                               |
| 9  | 木 |                                                                                                        | 25 | 土 | 14:00(福岡)九医連理事会・総務部会<br>(埼玉)全国医療情報システム連絡協議会<br>14:30 産業医研修会(後期・専門)<br>15:00(都城産経大)保険研修会 |
| 10 | 金 | 13:00 県精神保健福祉大会<br>14:00(日医)都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会                                                        |    |   |                                                                                         |
| 11 | 土 | 10:00(福岡)全国学校保健・学校医大会<br>13:00 大原一三政経セミナー                                                              | 26 | 日 | 医師国保組合歩こう会<br>(埼玉)全国医療情報システム連絡協議会<br>15:00 子どもの虐待に関するシンポジウム                             |
| 12 | 日 |                                                                                                        |    |   |                                                                                         |
| 13 | 月 |                                                                                                        |    |   |                                                                                         |
| 14 | 火 | 19:00 第17回全理事会                                                                                         | 27 | 月 | 13:30(東京)支払基金理事会<br>19:00 宮母常任理事会<br>19:00 広報委員会                                        |
| 15 | 水 | 13:00 朝日新聞宮崎支局完成披露パーティ<br>16:30 医協会計監査<br>19:00 広報委員会                                                  | 28 | 火 | 18:00 医協運営委員会<br>19:00 第18回全理事会                                                         |
| 16 | 木 | 14:00(日医)都道府県医師会広報担当理事連絡協議会                                                                            | 29 | 水 | 10:00(日医)日医社会保険指導者講習会<br>15:00 労災診療指導委員会                                                |
| 17 | 金 | 16:00(熊本)九医連常任委員会<br>17:00(熊本)九医連臨時委員総会                                                                | 30 | 木 | 10:00(日医)日医社会保険指導者講習会                                                                   |
| 18 | 土 | 10:00(熊本)九医連委員・九州各県役員合同協議会<br>13:30(熊本)九医連総会・医学会                                                       |    |   |                                                                                         |

都合により、変更になることがあります。

## 医 学 会 ・ 講 演 会

### 日本医師会生涯教育講座認定学会

注：数字は日本医師会生涯教育制度認定単位。当日，参加証を交付。

がん検診 = 各種がん検診登録・指定による研修会

| 名 称                                                      | 日 時                                      | 場 所                  | 演 題                                                                                                                                        | そ の 他                                       |
|----------------------------------------------------------|------------------------------------------|----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|
| 第13回都城脳神経<br>カンファレンス<br>( 3 単位 )                         | 10月 4 日(水)<br>19 : 00                    | 都城市北諸<br>県郡医師会<br>館  | 症例検討会                                                                                                                                      | 主催<br>都城脳神経カンファ<br>レンス<br>後援<br>田辺製薬(株)     |
| 第11回宮崎県肺癌<br>研究会<br>( 3 単位 )<br>がん検診                     | 10月 6 日(金)<br>18 : 30                    | 宮崎観光ホ<br>テル          | 癌における遺伝子治療の現状<br>九州大学胸部疾患研究施設<br>内科部門教授 原 信之                                                                                               | 共催<br>宮崎県肺癌研究会<br>大鵬薬品工業(株)<br>後援<br>宮崎県医師会 |
| 宮崎市郡内科医会<br>10月例会<br>( 3 単位 )                            | 10月 6 日(金)<br>19 : 00                    | MRT ミッ<br>ク          | 痛風・高尿酸血症の病態と治療<br>東京女子医科大学附属膠原病<br>リウマチ痛風センター助教授<br>山中 寿                                                                                   | 主催<br>宮崎市郡内科医会<br>後援<br>鳥居薬品(株)             |
| 宮崎県内科医会学<br>術講演会<br>( 3 単位 )                             | 10月 6 日(金)<br>19 : 00                    | 県医師会館                | 呼吸器感染症の治療における最近の<br>進歩<br>久留米大学医学部第一内科教授<br>大泉耕太郎                                                                                          | 共催<br>宮崎県内科医会<br>ファイザー製薬(株)                 |
| 第 8 回宮崎県警察<br>医会特別講演                                     | 10月 7 日(土)<br>15 : 15                    | 宮崎北警察<br>署           | 検屍と法医解剖の実際 - 特に頭部外<br>傷例について<br>佐賀医科大学法医学教授<br>木林 和彦                                                                                       | 主催<br>宮崎県警察医会                               |
| 都城市北諸県郡医<br>師会学術講演会<br>( 5 単位 )                          | 10月13日(金)<br>19 : 00                     | ホテル中山<br>荘           | 熱性痙攣 - 最近の知見 -<br>福岡大学医学部小児科教授<br>満留 昭久                                                                                                    | 主催<br>都城市北諸県郡医師会                            |
| 宮崎膠原病懇話会<br>( 3 単位 )                                     | 10月13日(金)<br>19 : 00                     | 宮崎観光ホ<br>テル          | 膠原病と妊娠<br>東京女子医科大学附属膠原病リ<br>ウマチ痛風センター教授<br>原 まさ子                                                                                           | 主催<br>宮崎膠原病懇話会<br>共催<br>日本新薬(株)             |
| 鹿児島大学公開講<br>座<br>Active Aging<br>- リハビリテーショ<br>ンからケアまで - | 10月14日(土)<br>13 : 00<br>15日(日)<br>9 : 00 | 宮崎県看護<br>等研修セン<br>ター | 申込先・詳細についての問合せ先<br>鹿児島大学医学部学務課大学院係<br>〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘 8 丁目35-1<br>099-275-5120 FAX099-275-5136<br>申込期限 平成12年10月 2 日(月)必着<br>( 先着80名で締切 ) | 主催<br>鹿児島大学医学部                              |

| 名 称                                | 日 時                | 場 所           | 演 題                                                                                                        | そ の 他                                                                                                                                                                                  |
|------------------------------------|--------------------|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回宮崎県・痴呆を考える会<br>(3単位)            | 10月14日(土)<br>14:00 | 宮日会館          | 痴呆とは - 早期診断と対応 -<br>宮崎医科大学精神科教授<br>三山 吉夫<br><br>シンポジウム<br>在宅痴呆性老人の実態                                       | 共催<br>宮崎県・痴呆を考える会<br>イーザイ(株)<br>ファイザー製薬(株)<br>後援<br>宮崎県医師会<br>宮崎県栄養士会<br>宮崎県看護協会<br>宮崎県作業療法士会<br>宮崎県社会福祉士会<br>宮崎県社会福祉協議会<br>宮崎県精神科医会<br>宮崎県精神病院協会<br>宮崎県薬剤師会<br>宮崎県理学療法士会<br>宮崎県介護福祉士会 |
| 第3回宮崎県プライマリ・ケア研究会<br>(5単位)         | 10月14日(土)<br>14:30 | 県医師会館         | 東洋医学と全人的包括医療<br>鹿児島大学医学部臨床検査<br>医学講座教授 丸山 征郎                                                               | 共催<br>宮崎県プライマリ・<br>ケア研究会<br>(株)ツムラ                                                                                                                                                     |
| 第14回宮崎直腸肛門疾患懇話会<br>(3単位)<br>がん検診   | 10月14日(土)<br>15:00 | 県医師会館         | 肛門疾患に対する手術療法の実際<br>松田病院長 松田 保秀                                                                             | 主催<br>宮崎直腸肛門疾患懇<br>話会                                                                                                                                                                  |
| 第7回心臓病研究会<br>(3単位)                 | 10月16日(月)<br>19:00 | 宮崎市郡医<br>師会病院 | 冠動脈バイパス手術<br>宮崎市郡医師会病院外科医長<br>福島 靖典                                                                        | 主催<br>宮崎市郡医師会病院                                                                                                                                                                        |
| 宮崎市郡産婦人科<br>医会10月例会<br>(3単位)       | 10月16日(月)<br>19:00 | 県医師会館         | 妊娠中毒症の薬物療法<br>宮崎医科大学産婦人科助教授<br>鮫島 浩                                                                        | 主催<br>宮崎市郡産婦人科医<br>会                                                                                                                                                                   |
| 宮崎市郡外科医会<br>10月例会<br>(3単位)         | 10月16日(月)<br>19:00 | 宮崎観光ホ<br>テル   | 当院における小児外科の現況<br>県立宮崎病院外科医長<br>下菌 孝司                                                                       | 主催<br>宮崎市郡外科医会                                                                                                                                                                         |
| 宮崎木曜会学術講<br>演会<br>(3単位)            | 10月19日(木)<br>19:00 | 宮崎観光ホ<br>テル   | 胃炎をどのように考えるか<br>広島大学医学部第一内科講師<br>春間 賢                                                                      | 共催<br>宮崎木曜会<br>アストラゼネカ(株)                                                                                                                                                              |
| 臨床医のための循<br>環器疾患研究会<br>(3単位)       | 10月20日(金)<br>18:30 | 宮崎観光ホ<br>テル   | 致死性心室性不整脈の診断と治療<br>済生会熊本病院心臓血管センター<br>内科医長 土谷 健                                                            | 共催<br>臨床医のための循環<br>器疾患研究会<br>日本ベーリンガーイ<br>ンゲルハイム(株)                                                                                                                                    |
| 第13回宮崎乳腺疾<br>患研究会<br>(3単位)<br>がん検診 | 10月21日(土)<br>15:30 | 県立宮崎病<br>院    | 乳癌における Sentinel Biopsy<br>大阪府立成人病センター<br>第三外科医長 元村 和由                                                      | 主催<br>宮崎乳腺疾患研究会<br>アストラゼネカ(株)<br>後援<br>宮崎県医師会<br>宮崎県母性保護産婦人<br>科医会<br>宮崎県外科医会                                                                                                          |
| 第15回宮崎 MRI 研<br>究会<br>(3単位)        | 10月21日(土)<br>16:00 | 宮崎観光ホ<br>テル   | 局所脳血流測定による脳賦活検査<br>岡崎国立共同研究機構生理学研<br>究所大脳皮質機能研究系心理生<br>理学研究部門教授 定藤 規弘                                      | 主催<br>宮崎 MRI 研究会<br>第一製薬(株)                                                                                                                                                            |
| 第19回宮崎県臨床<br>整形外科セミナー<br>(3単位)     | 10月21日(土)<br>18:00 | 宮崎観光ホ<br>テル   | スポーツ医学は本当に役立っているか<br>獅子目整形外科病院長<br>獅子目賢一郎<br>低出力超音波パルスによる骨折治療<br>の基礎と臨床<br>九州大学附属病院リハビリテー<br>ション部助教授 神宮司誠也 | 共催<br>宮崎県臨床整形外科<br>医会<br>宮崎県整形外科医会<br>帝人(株)                                                                                                                                            |

| 名 称                                     | 日 時                                 | 場 所                                      | 演 題                                                                                                      | そ の 他                                                                |
|-----------------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|
| 宮崎市郡小児科医<br>会学術講演会<br>(3単位)             | 10月26日(木)<br>19:00                  | 宮崎観光ホ<br>テル                              | 小児科診療最近の話題から<br>鹿児島大学医学部小児科教授<br>宮田晃一郎                                                                   | 共催<br>宮崎市郡小児科医会<br>日本ペーリンガーイ<br>ンゲルハイム(株)                            |
| 第11回日本臨床ス<br>ポーツ医学会学術<br>集会<br>(3単位)    | 10月28日(土)<br>8:30<br>29日(日)<br>9:00 | シーガイア<br>ワールドコ<br>ンベンショ<br>ンセンター<br>サミット | スポーツ選手に対する関節鏡視下手術<br>大阪府立看護大学理学療法科<br>教授 史野 根生<br>臨床スポーツ医学会10年間の歩みと<br>21世紀への期待<br>宮崎医科大学整形外科教授<br>田島 直也 | 主催<br>第11回日本臨床スポ<br>ーツ医学会学術集会                                        |
| 宮崎市郡医師会11<br>月例会<br>(5単位)               | 11月1日(水)<br>18:30                   | 宮崎観光ホ<br>テル                              | 高齢社会下の医療・福祉<br>青梅慶友病院理事長<br>大塚 宣夫                                                                        | 主催<br>宮崎市郡医師会                                                        |
| 第14回宮崎県ウイ<br>ルス肝炎研究会<br>(5単位)           | 11月2日(木)<br>18:45                   | 宮崎観光ホ<br>テル                              | 早期肝癌の画像診断と血管新生過程<br>虎の門病院消化器科医長<br>池田 健次<br>TTV およびHCV の疫学とその病態<br>国立病院九州医療センター院長<br>柏木征三郎               | 共催<br>宮崎県ウイルス肝炎<br>研究会<br>宮崎県医師会<br>宮崎県内科医会<br>住友製薬(株)               |
| 平成12年度結核研<br>修会(1)<br>(3単位)             | 11月7日(火)<br>19:00                   | 旭化成向陽<br>クラブ                             | 結核の院内感染及びツ反・BCG の最<br>近の事情について<br>沖縄中部病院 遠藤 和郎                                                           | 主催<br>延岡保健所                                                          |
| 宮崎脳腫瘍研究会<br>(3単位)                       | 11月10日(金)<br>18:30                  | ホテルプラ<br>ザ宮崎                             | 膠芽腫に対する分子標的治療<br>広島大学医学部脳神経外科教授<br>栗栖 薫                                                                  | 主催<br>宮崎脳腫瘍研究会<br>三共(株)                                              |
| (社)全日本鍼灸<br>学会第9回九州ブ<br>ロック学術集会宮<br>崎大会 | 11月11日(土)<br>12日(日)                 | 宮崎市中央<br>公民館                             | 経絡テストを用いた病態診断と鍼治<br>療 - 鍼灸臨床論構築の試み -<br>福岡大学スポーツ科学部教授<br>向野 義人<br>鍼灸の魅力とその未来<br>愛媛東洋医学研究所<br>山岡 傳一郎      | 主催<br>全日本鍼灸学会宮崎<br>地方会<br>後援<br>日本鍼灸師会<br>宮崎市<br>宮崎県医師会<br>宮崎県鍼灸師会   |
| 宮崎県東洋医学会<br>学術講演会<br>(3単位)              | 11月11日(土)<br>18:00                  | 県医師会館                                    | 漢方の診かたと不妊症<br>日本東洋医学会名誉会員<br>寺師 睦宗                                                                       | 主催<br>宮崎県東洋医会<br>共催<br>鐘紡(株)<br>小太郎漢方製薬(株)<br>(株)ツムラ<br>後援<br>宮崎県医師会 |
| 宮崎うつ病研究会<br>講演会<br>(3単位)                | 11月17日(金)<br>18:30                  | 宮崎観光ホ<br>テル                              | うつ病の診断と治療<br>長崎大学医学部精神神経科教授<br>中根 允文                                                                     | 共催<br>宮崎うつ病研究会<br>スミスクライン・<br>ビーチャム製薬(株)                             |

| 名 称                                  | 日 時                               | 場 所          | 演 題                                                                                                                                                                                                           | そ の 他                                                                             |
|--------------------------------------|-----------------------------------|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 第2回宮崎市郡医師会公開講座・第98回しなのめ医学会<br>(5単位)  | 11月18日(土)<br>14:00                | 宮日会館         | みんなで話そう宮崎の緩和ケア<br>- あなたにできること<br>家族にできること<br>医療者にできること -<br>コメンテーター<br>県立宮崎病院副院長・外科部長<br>豊田 清一<br>宮崎市郡医師会病院緩和ケア<br>カウンセラー 齋藤 武<br>宮崎市郡医師会病院緩和ケア<br>病棟準備検討委員会委員・<br>いしかわ内科院長 石川 智信<br>コーディネーター<br>ジャーナリスト 東 治男 | 主催<br>宮崎市郡医師会                                                                     |
| 第12回宮崎県腹部<br>超音波懇話会<br>(3単位)         | 11月18日(土)<br>14:30                | 宮崎観光ホ<br>テル  | 肝疾患における CT の基本的読影法<br>- エコーと対比して -<br>市民の森病院放射線科<br>杜若 幸子<br>知っておきたい腹部超音波解剖<br>日本大学医学部第三外科講師<br>加藤 高明                                                                                                         | 共催<br>宮崎県腹部超音波懇<br>話会<br>宮崎県内科医会<br>宮崎県臨床衛生検査<br>技師会<br>宮崎県臨床検査懇話<br>会<br>第一製薬(株) |
| 第36回全国糖尿病<br>週間糖尿病学術講<br>演会<br>(3単位) | 11月18日(土)<br>16:00                | 宮崎観光ホ<br>テル  | 糖尿病の診断基準とその活用<br>広島原爆障害対策協議会健康<br>管理センター所長 伊藤千賀子                                                                                                                                                              | 共催<br>宮崎県糖尿病懇話会<br>ノボルディスク<br>ファーマ(株)<br>後援<br>宮崎県医師会<br>宮崎県内科医会<br>宮崎市郡医師会       |
| 平成12年度結核研<br>修会(2)<br>(3単位)          | 11月20日(月)<br>19:00                | 旭化成向陽<br>クラブ | 結核の集団感染事例について<br>学校医に期待するもの<br>高知市保健所 豊田 誠                                                                                                                                                                    | 主催<br>延岡保健所                                                                       |
| 第70回日本感染症<br>学会西日本地方会<br>総会<br>(3単位) | 12月1日(金)<br>9:00<br>2日(土)<br>9:00 | 宮崎観光ホ<br>テル  | 特別講演<br>エイズの治療 - 現況と展望 -<br>熊本大学医学部免疫病態学・内<br>科学第二講座 満屋 裕明<br>自然環境中のバクテリアの生態に関<br>する新知見とその波紋<br>九州大学大学院医学研究院<br>細菌学 吉田 真一<br>会長講演<br>コホート研究からみた HTLV - I 感<br>染の自然史<br>県立看護大学 橘 宣祥<br>シンポジウム「病院感染」            | 主催<br>日本感染症学会西日<br>本地方会                                                           |

| 名 称                          | 日 時               | 場 所                | 演 題                                                                                                                                                               | そ の 他                                                                              |
|------------------------------|-------------------|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 朝日医学衛星セミナー<br>(5単位)          | 12月2日(土)<br>14:00 | 県医師会館<br>(サテライト会場) | テーマ：インフルエンザ<br>- 現状と今後 -<br>インフルエンザウイルスの感染・発症メカニズム<br>東京大学医科学研究所教授<br>河岡 義裕<br>インフルエンザに対する予防・診断・治療<br>長崎大学熱帯医学研究所教授<br>永武 毅<br>小児インフルエンザの特徴<br>川崎市立川崎病院長<br>武内 可尚 | 主催<br>朝日新聞社<br>日本ロシュ(株)<br>共催<br>宮崎県医師会<br>後援<br>日本医師会<br>日本内科学会(予定)<br>日本小児学会(予定) |
| 都城地区整形外科<br>医会学術講演会<br>(3単位) | 12月2日(土)<br>18:30 | ホテル中山<br>荘         | 脊椎脊髄腫瘍の治療の実際<br>鹿児島大学医学部整形外科教授<br>小宮 節郎                                                                                                                           | 主催<br>都城地区整形外科医会<br>後援<br>日本臓器製薬(株)                                                |

広告(セフゾン)

## 9月のベストセラー

|    |                    |                     |         |
|----|--------------------|---------------------|---------|
| 1  | ハリー・ポッターと秘密の部屋     | J・K・ローリング           | 静 山 社   |
| 2  | いきなり！黄金伝説。超節約レシピ50 | テレビ朝日編              | テレビ朝日   |
| 3  | ハリー・ポッターと賢者の石      | J・K・ローリング           | 静 山 社   |
| 4  | パソコンの「パ」の字から       | サトウサンペイ             | 朝日新聞社   |
| 5  | 粗食のすすめ秋のレシピ        | 幕内秀夫                | 東洋経済新報社 |
| 6  | 往復エッセイ ああ言えばこう行く   | 阿川佐和子・壇ふみ           | 集英社     |
| 7  | アタマにくる一言へのとっさの対応術  | バルバラ・ベルクハン          | 草思社     |
| 8  | 話を聞かない男・地図が読めない女   | アラン・ピーズ<br>バーバラ・ピーズ | 主婦の友社   |
| 9  | 讃岐路殺人事件            | 内田康夫                | 角川書店    |
| 10 | 新宿鮫風化水脈            | 大沢在昌                | 毎日新聞社   |

宮脇書店本店調べ  
提供：宮崎店 宮崎市青葉町)  
☎ (0985) 23-7077

## ドクターバンク情報

(H12.10.1 現在)

求人：67件（常勤 68人）， 求職：1件 1人， 賃貸：2件

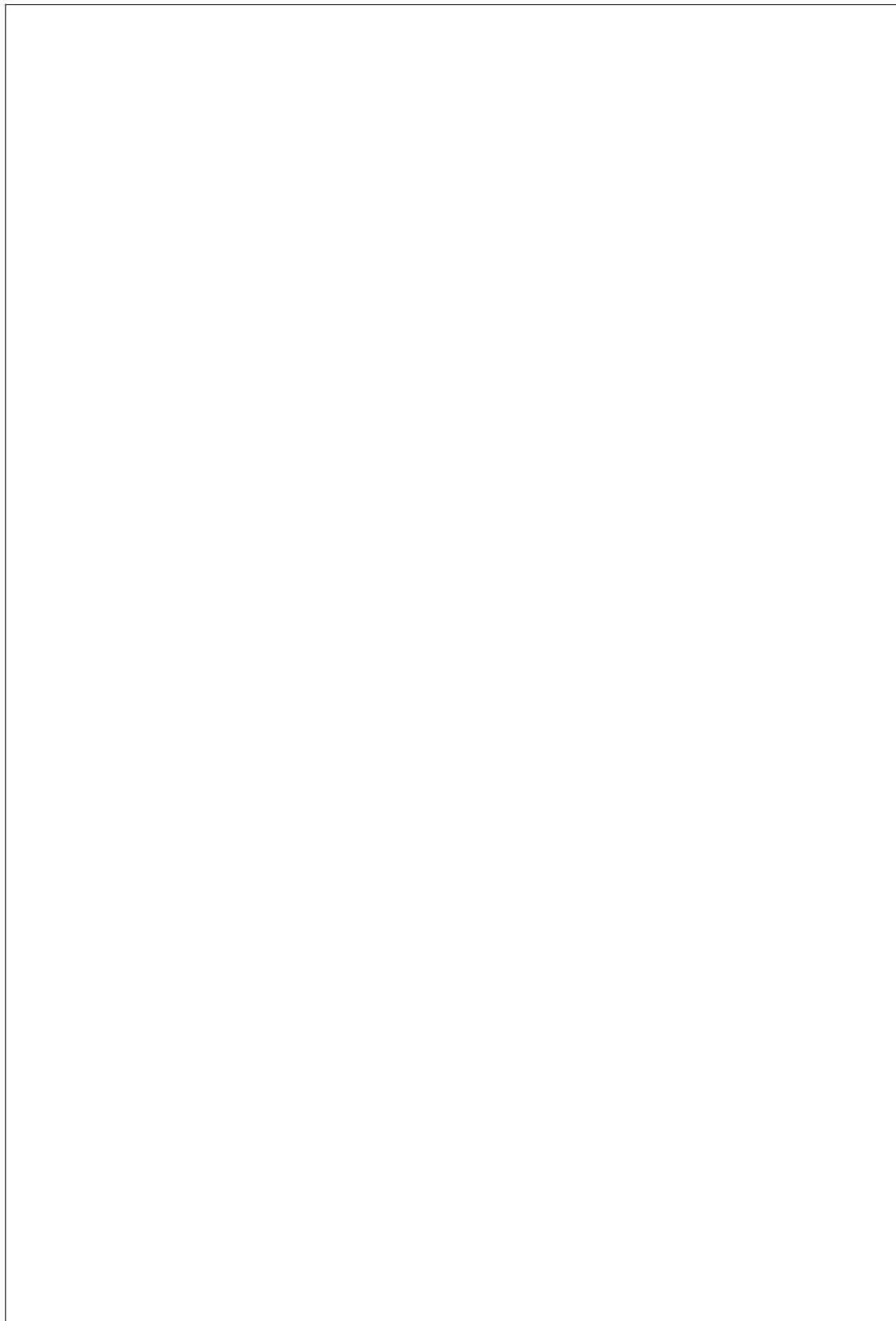
本会では、会員の相互情報サービスとしてドクターバンク（求人・求職等の情報提供）を設置しております。現在、上記のとおり情報が寄せられております。

情報の閲覧ご希望の方は、県医師会事務局に直接お越しになり、ご覧になってください。なお、求人、求職の申し込みをご希望の方は、所定の用紙をお送りしますので、ご連絡下さい。

担当理事 和田 徹也  
事務局 島原 あつ子  
TEL 0985-22-5118

あなたできますか？（29）（広報委員会による解答）

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| a | a | b | a | e | b | c | d | e | e  |



## 医師年金のおすすめ

加入なさっていますか...

## 日本医師会 年金

...豊かな老後 確かな支え

## 特 色

## 1. ライフスタイルに合わせて受け取れます。

基本年金は一生受け取ることができます。

しかも保証期間の15年間は生死にかかわらず受け取れます。

加算年金は基本年金と同じ終身年金のほか、5、10、15年の確定年金も選ぶことができます。

コースは受給時にお決めいただくことができます。

## 2. 魅力ある計算利率です。

計算利率は年率3.0%です。

## 3. 掛金に上限はありません。

基本掛金：必ずお掛けいただきます。月額12,000。

加算掛金：任意で月額一口6,000円の整数倍。上限はありません。

\*まとまった資金で随時払いもできます。

## 4. 受給開始が延長できます。

受給開始は原則として65歳からですが、75歳まで延長できます。

\*延長のあとでも短縮ができます。

## 加 入 の 要 件

日本医師会会員であれば会員種別は問いません。

加入日現在、62歳未満の方

\*パンフレットのご請求とお問い合わせは

日本医師会 年金・税制課 TEL .03 - 3946 - 2121 (代)

FAX .03 - 3946 - 6295

宮崎県医師会 経 理 課 TEL .0985 - 28 - 5118

FAX .0985 - 27 - 6550

## 〔日本医師会年金制度アンケート〕 ご協力をお願いします。

1. 日本医師年金制度をご存じですか？

 知っている。 知らない。

2. 日本医師年金について（複数回答可）

 加入している。 加入したい。 検討したい。 詳しく説明してほしい。 資料を送ってほしい。 加入しない。 その他。

---



---



---



---

|       |                    |
|-------|--------------------|
| 所属医師会 |                    |
| 医療機関名 |                    |
| ご氏名   |                    |
| 連絡先   | (住所) 〒 -<br>電話 - - |

3. ご案内（説明）に際しまして、ご希望の受託会社があれば 印を付してください。

1 東洋信託銀行

4 第一生命保険

2 千代田生命保険

5 住友生命保険

3 日本生命保険

6 朝日生命保険

4. 受託会社の希望なし

ご協力ありがとうございました。

ご回答は郵送またはFAXをお願いします。

〒880-0023 宮崎市和知川原1-101  
宮崎県医師会（経理課）  
FAX0985-27-6550

## 診療メモ

## メールを始めるまでのABC

## ( 3. メールを楽しむ )

## 添付ファイル

ただの文章だけでなく、写真や絵、表計算のファイルなどを相手に送りたい場合があります。この場合、「添付ファイル」という方法を用います。新規メールを作った後、「書類を添付」とか「添付ファイル追加」というような項目を探します。この項目を選択して(図1)、自分の送りたい写真などのファイル名を指定してあげます。この状態でメールを送信すると、指定したファイルも一緒に送ってくれます。受け取った側は、メールを開くと、添付ファイルがある旨の表示がありますので(図2)、それをダブルクリックすることで、中身を見ることができます。

注意1 / 写真などのファイルは、非常に大きな容量になっている場合があります、これらを送ると相手に迷惑をかけます。あらかじめ送信したいファイルの大きさを調べて、せいぜい100KB(キロバイト)程度までの大きさのものを送るようにしましょう。

注意2 / 添付ファイルを受け取った場合は、下記のウイルスに注意が必要です。

注意3 / 原則的にメーリングリストへの投稿には添付ファイルはしないようにします。

図1  
メール送信時の  
添付ファイルの指定

図2  
受信したメールに表  
示された添付ファ  
イル

## HTML形式

メールを送るのに、ただの文字だけでは味気ないということで、文字の大きさを変えたり、

色を付けたりして送ることができます(=HTML形式または書式付きで送る)。しかし、この場合、相手側のソフトが異なると、意味不明の文字が

ずらずらと並び迷惑をかけます。いつもやりとりする仲間で、お互いのソフトが判っている場合は、HTML形式でメールの内容を豊にすることは有用ですが、あまり知らない相手に送る場

合やメーリングリストに送る場合は、必ずテキスト形式(書式なし形式)で送りましょう。(Outlook Expressをお使いの方は、図3を参照)

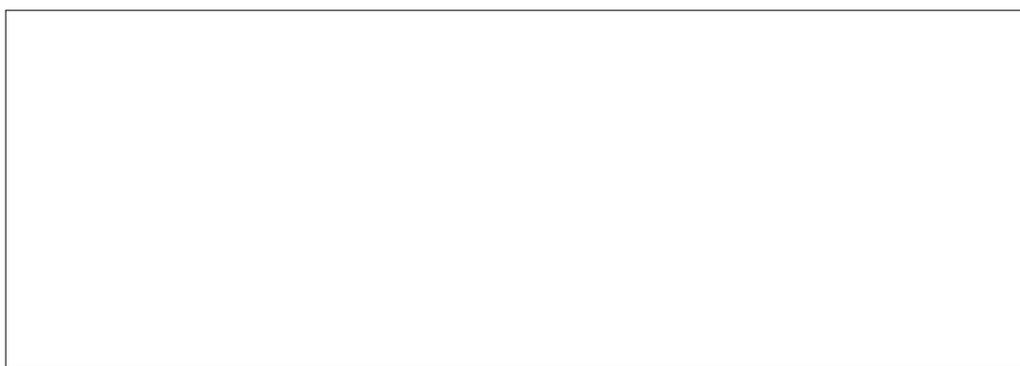


図3

「ツール」メニューから「オプション」の項目を選び、「送信」を開いたところ。上図のように「テキスト形式」の方にチェックをいれます。

#### メーリングリスト

メールを始めても、そう毎日やりとりする用事ありませんから、だんだんとメールを開かなくなるというのが常です。そのために、是非いくつかのメーリングリストにお入り下さい。医療関連のまじめなものから、趣味の世界まで多種多様のメーリングリストがあります。「今日は、何がきているだろう」とメールを開けるのが楽しみになります。とりあえず、<http://mail.cocode.ne.jp/>を見てください。

#### ウイルス

「I love you」,「メリッサ」などで一躍有名になったコンピュータウイルスです。名医の皆さんでも、このウイルスの治療はお手上げではないでしょうか。予防策をとりましょう。現在ウイルスは、上記の、添付ファイルの形で送られてきます。受け取った添付ファイルが「\*\*\*.exe」というようなファイル名であったら、絶対にダブルクリックして、開いてはいけません！たとえ仲の良い相手から来ている場合でもダメです。ウイルスもだんだん巧妙になってきていますので、県医師会のメーリングリストでもいち早い情報提供を心がけます。

## 読者の広場

### 読者からの投書

4月号の随筆2件と5月号の随筆1件の活字の大きさに違いがあります。内容に格差がある訳ではありませんので、同じ大きさにされるべきで、始めから字（語）数の指定をされ、その規格に合わない時のみ活字を小さくする旨、始めに指示された方が良くと思われます。

せっかく投稿したのに、他に比べ活字が小さくなるのは不快なことと考えます。

（平成12年9月11日、〇生）

### 広報委員会の返事

ご指摘の件はごもっともです。なぜ活字が小さくなったのかについて、広報委員会から説明させていただきます。

4月号の随筆2件は12年の新春随想としてご寄稿いただいた原稿です。新春随想は800字以内という規定がありますが、この2編はそれぞれ約1,850字、1,500字と長すぎたため、編集会議で随筆、旅行記へ転載がよいと判断し、著者に了解をいただきました。

新春用の原稿でしたので、できるだけ早く載せたかったこともあり、紙面の都合にて、ご本人の了解をいただいて活字を小さく9ポイントにいたしました。

ご指摘いただきましたように、投稿いただく原稿は、それぞれに字数を指定し、規定外のものについては、個々に、字数を減らすために書き直していただいたり、活字を小さくしたり、2つの号に分けて掲載したり等の対応をしておりますが、今後、よりわかりやすく明記していきたいと考えます。

◆ ◆ ◆

今月号から会員からの生の意見を聞く為に、この「読者の広場」を設けました。皆様からの辛口のご意見をお待ちしています。遠慮せずに出して下さい。

（平成12年9月27日）



朝晩めっきり肌寒くなり、わが家では9月始め頃から、こおろぎが台所や風呂場に飛び込んで来ては、美しい歌声を聞かせてくれていました。寒いと言え、オリンピック開催地のシドニーも、春を迎えたばかりだというのに、日中30度もあったり、かなり冷え込んだりと、その大陸気候のスケールの大きさを感じさせてくれます。今世紀最後のシドニーオリンピックでの韓国と北朝鮮の南北合同行進は、

ささやかな一歩ながらも、20世紀に起こった1つの戦争の後始末のきっかけとして、大変意義のあるものだったでしょう。

9月18日付けの読売新聞に、「28歳から42歳までの日米両国の男女40名が9日間の合同合宿を行い、積極的な議論を展開した」と編集手帳に載っていました。目を惹いたのは日本側の意見の方が活発であったということと、日米共通の感想が「お互いを知らないことがわかった」ということです。この場合の「お互いを知らない」というのは、国レベルでの理解度についてだと思えます。日本人にとって一番親しみのある国アメリカについて、イメージでは分かっているような気になっていますが、実はほとんど何も知らないのです。なにも無理矢理グローバルな視点で見ようなどと格好つけずとも、家庭の中で、学校で、仕事場で、自分以外の人間を理解するのは難しいことです。相手が患者さんだとなおさらです。

とかく「近頃の若者は……」と言われて久しいですが、メダルを獲得するしないに関わらず、五輪で活躍する21世紀の若者らの伸びやかで、しなやかな自己表現、自己実現の器用さには目を見張るばかりです。日州医事も時代の流れに沿うべく、ニューコーナーを次々と設けておりますので、今後ともご愛読の程宜しくお願いします。(小村)

\* \* \* \* \*

9月下旬の連休を利用して標高1,787mの久住山に初めて登ってきました。ハアハアゼエゼエの苦難の山登りでしたが、登頂後のビールの味は格別でした。某旅行社の団体登山隊がいたり、ワインパーティをしているグループがいたり、大声で携帯電話をかけている人がいたりして、山頂はとても賑やかでした。日州医事にまたニューコーナーができて、本誌もさらに賑やかになりました。会員の投書欄「読者の広場」です。疑問、苦情、厳しい批評、お褒めの言葉、なんでも構いません。生の声を聞かせて下さい。(成田)

\* \* \* \* \*

9月24日は思い出に残る一日となりました。朝は女子マラソンで高橋金メダル、夜は巨人セ・リーグ優勝、さらに長島監督の続投発表というbeautiful Sundayでした。いよいよON対決の日本シリーズが現実味を帯びてきました。楽しみが少ない日常生活のなかで元気を与えてくれるスポーツ番組は小生にとって必需品となっており、プロ野球やオリンピックを観戦しながら本号の校正作業をしました。(三原)

\* \* \* \* \*

シドニーオリンピックも佳境に入りました。32年ぶりのメダルをかけたサッカーには特に注目していましたが、結果はご承知の通りです。ブラジルに先制され決勝トーナメント進出をあきらめかけた時、他会場におけるスロバキアの勝利により救われました。そして、準々決勝に進出したチームの中で、一番やり易いと思われたアメリカにタイアップ寸前に追い付かれ、まさかのPK戦負け、しかも、中田がはずして。世の中と同じで何が起るかわかりません。残念な結果に終わりましたが、これこそサッカーであり、最大の魅力でしょう。(川名)

\* \* \* \* \*

9月15日から、シドニーオリンピックが始まり、連日、日本選手の活躍に一喜一憂しておりますが、9月24日は、特に感動しました。女子マラソンの高橋尚子選手の金メダルは、見事でした。おまけに、当日の夜は、ジャイアンツの劇的なセ・リーグ優勝も決まり、巨人ファンの私にとっては興奮しっぱなしの一日となりました。(高崎)

\* \* \* \* \*

グリーンページを読みました。一人ひとりがゆとりを持って、楽しんで将来のデザインが描けるようになればいいと思います。依存したいとは思いませんが、個人の自覚や自立をあまりに強調しすぎると、生きることがしんどくなるような気がします。(井上)

(井上)

\* \* \* \* \*

病院のパソコンをバージョンアップしました。メモリー・パワーが大きくなり、作業もスピードアップし便利になりました。また、古いのを自宅用にしたので両方でe-mailができるようになり、自宅での作業もはかどります。(これは良いことでしょうか?)さて、先日麻酔科医の薬物中毒死が報じられました。麻酔に際して用いる薬剤は、使い方を誤るといろんな意味で危険なものがほとんどです。あのような事件は、同じ麻酔科医としてだけでなく、医師としても、更に人間としても、誠に恥ずかしいものです。保険点数の不正請求も然り。医療の質を高めることはもちろん大事ですが、その前に、人としての知性と理性を自分自身で育むのは衆知の事実でしょう。ps. 初めて、県医師会館のトイレに行きました。男子トイレと女子トイレの仕切りの上がなく、驚いてしまいました。今の時代に……。

女子職員の苦勞が見えるようです。ぜひ改善をお願いします。(大藤)

(大藤)

## 「新春随想」原稿募集

平成13年1月～2月に恒例になりました「新春随想」欄を企画いたしました。この欄は大変好評ですので、奮ってご投稿をお願い致します。

題 材 医事評論，診療閑話，身辺雑記，詩歌，俳句等なんでも結構です。

字 数 800字以内(字数が多い場合は「新春随想」として掲載できないことがありますのでご承知ください)

本文に関連した写真・イラスト(1枚のみ。カラー印刷はできません)も掲載できます。

締 切 平成12年12月10日

宛 先 宮崎県医師会広報委員会

E-mail:genko@miyazaki.med.or.jp

掲載については、広報委員会にご一任下さいますようお願いいたします。原則として、原稿はお返しいたしません。返戻を希望される方はその旨ご指示ください。

---

日 州 医 事 第614号(平成12年10月号)  
(毎月1回10日発行)

発行人 社団法人 宮 崎 県 医 師 会  
〒880-0023 宮崎市和知川原1丁目101番地  
TEL 0985-22-5118(代) FAX27-6550  
<http://www.miyazaki.med.or.jp/>  
E-mail:office@miyazaki.med.or.jp  
代表者 秦 喜 八 郎

編 集 宮崎県医師会広報委員会  
委 員 長 成田 博実  
副 委 員 長 井上 久  
委 員 市来 緑，大藤 雪路，面高俊一郎  
小村 幹夫，佐々木 究，戸枝 通保  
三原 謙郎，川名 隆司  
担当副会長 大坪 睦郎  
担当理事 富田 雄二，高崎 直哉  
事務局学術課 落合 素子，竹崎栄一郎，今井 和代  
印刷所 有限会社 ケイ・プロデュース  
定 価 350円(但し、県医師会員の講読料は会費に含めて徴収してあります)

---